

【巻頭エッセイ】

扉をあける読書 ドリアン助川 2

言葉によってコトバを学ぶ 若松英輔 4

コミュニケーションに必要なこと 鴻上尚史 6

国語力は財産 ジェーン・スー 8



October 2021
大修館書店 116

特集：新課程直前！ いまやっておきたい国語の準備

新課程の授業 「読むこと」①～③

比較読みのできる多角的な学び 佐藤正人 10

現代と古典をつなげる授業 永田里美 12

「言語文化」で楽しく学べる古典のイロハ 石鍋雄大 15

新課程の授業 「話すこと・聞くこと」

「話すこと・聞くこと」の基礎力を身につける授業案 山口正澄 18

新課程の授業 「書くこと」

「正確な情報」と「魅力的な情報」を使いこなす 吉田東洋 21

新課程の授業 「評価」①～③

活動の指針となる評価を考える 塗田佳枝 24

1時間でもできる「書くこと」の授業 下西美穂 27

点と点をつなぐ「読むこと」の授業と評価 古川佳奈 30

新課程の授業 「ICT」①～③

生徒が作る「言語文化」の授業 中藪久美子 33

ICTを活用した短歌・俳句の創作 瓜生恵美子 37

ICTで生徒の関心を授業へ！ 構大樹 39

どうなる GIGAスクール構想 編集部 43

大修館書店 学習辞典・国語便覧のご案内 中面カラーページ

● 連載

いま、高校生に読んでほしい本… エディ・ジェイク『世界でいちばん幸せな男』… 内田 剛 45

詩の教室へようこそ③…………… 大きな何かと出会うために …………… 和合亮一 46

国語教師のための
古典文法指導講座⑧…………… 形容詞は「やばい」？…………… 大倉 浩 50
——紫式部にファンレターを書こう⑤

コトバのひきだし⑧…………… あふれる「人流」、活用する「人財」…………… 関根健一 52

ことばでつながる やまとうた③…………… ピーター・J・マクミラン、奥村準子 54

青山あり！ 中国祠墓紀行⑤… 柳侯祠・柳宗元衣冠墓 …………… 平井 徹 58

● コーナー

えつらん室… 国語教育は文学をどう扱ってきたのか／ことばの「省略」とは何か …………… 60
異言語間コミュニケーションの方法／大きな文字 二色刷り 明鏡国語辞典 第三版

国語のNews & Topics …………… 62

扉をあける読書



すけがわ
ドリアン 助川

明治学院大学国際学部教授。作家、歌手。著書多数。映画化もされた小説「あん」は世界十五言語で翻訳されている。「線量計と奥の細道」で日本エッセイストクラブ賞受賞。

効率という言葉が正義になってしまったのは、いつの頃からだろうか。新幹線から食堂車が消滅したときも、その理由は効率云々だったと記憶している。できるだけ多くの客を乗せて運行した方が、経済的に実りが多いという事情はわかる。だが、在来線の特急も含め、食堂車が姿を消してしまった日本の鉄道の旅からは、なにか大きなものが失われたという感がある。

本の読み方にも同じことが言える。かつて速読はひとつの芸でしかなく、一般的な読書の姿勢ではなかった。しかし、効率最優先のこの時代では、俄然正統派の位置を占めつつある。メールやSNS、ゲームなどで忙しい若者たちだけではなく、腰を据えて人生の味わいを感じずべき壮年層にもこの傾向は見られる。一冊の本とゆっくり向かい合う時間が、現代の日本列島で暮らす人々からは失われつつある。本を読むなら速読がほしいし、名作を知るなら、五分で粗筋がわか

るダイジェスト版が都合良いのである。

速読が効率的であると主張する人々には、二つの理由があるようだ。書かれている知識を吸収するのにちんたら時間をかけているのはバカらしい、ということ。もうひとつは、脳の活性化である。スピーディーに文字を追うことにより、カンフル剤でも打ったかのように脳が働きだすという理屈だ。

どんな読み方をしようと自由だから、速読を否定しようとは思わない。ただ、読書は、知識を吸収することだけが目的なのではない。テレビ、映画、ゲームなど、映像を受けとめるばかりの脳の使い方とは違い、読書は書かれた文字をもとに、脳内に光景や論理を立ち上げらせる創造行為である。書く側の創造と読む側の創造があつて、読書は初めて成り立つのだ。速読に挑まずとも、頭のなかに像を結ぶ丁寧な読書ができるなら、脳は十分に喜んでいてはいないだろうか。

ボクが大学の教員として学生たちに勧めているのは、極めてゆつくりと味わう読書である。自分では「扉をあける読書」と呼んでいる。

たとえば三年生のゼミ生の場合、前期は日本戦没学生の手記『さけわだつみのこえ』（岩波文庫）とベトナム戦争時の米兵の手紙集を交互に読む作業になる。後期は収容所を生き延びた心理学者V・E・フランクルの『夜と霧』（みすず書房）が必修の一冊だ。これらを一ページずつ大切に、じっくり読んでいく。学生たちにとって難解な言葉があれば、それを調べてもらい、その発表を交えて、同じページを繰り返し読む。

この行為により、読書は各自のなかでどんどん深まっていく。特攻隊員の遺書に記された「自由主義」という言葉から、「京大滝川事件」や「天皇機関説」が現れる。「クロオチエ」や「ポアンカレ」などの人名が飛びだし、文学座の「わが街」や賢治の「鳥の北斗七星」も登場する。それらを学生たちは調べたり、読んだりする。すると、文字の奥に隠れていた当時の日本の空気というものが浮かび上がってくる。同時に、本当は死にたくなかった学徒兵たちの気持ちも伝わったり、二〇〇〇年生まれの学生たちもふと心のなかで立ち止まる。眼差しが新たになる。

速読の時代に、なぜボクがこのような遅読を勧めるのか。もう一つの理由は、書物と世界には垣根がないという見方をしているからだ。書物のなかに扉を見つけ、それをあけることによつて一ページ内の表現に深く入りこんでいくという精神的行為は、実に、世界の積極的な再構成に他ならない。ボクらが暮らすこの社会にも無限の扉があり、それらはふだん隠れているのだが、「扉をあける読書」を経験した者なら、効率主義の人よりはきつと見つけやすいのである。

最寄り駅から大学キャンパスまでの道。これをただ歩くのではなく、扉を見つめるように進みなさいとボクは学生たちに言う。どれだけの種類の草花に会えるのか。どんな小鳥の声が聞こえてくるのか。通行人を守るガードレールを発明した人はだれなのか。通りに一店舗を構えるならどんな業種が喜ばれるのか。その扉をあけ、自分なりの答えを見つめることにより、道は日々新たになる。世界は更新される。

といった主張をすると、「それで、どんな教育効果がありましたか?」とよく尋ねられる。そんなことは、わかるはずがない。扉をあけることの豊かさを学生たちが実感するのは、十年、二十年、あるいはもっと先かもしれないのだ。効率はあまりよくないのである。

「言葉の森を育てよう」

言葉を知ることには世界の細かな「差異」に気づくこと。一本ずつ、言葉の森に木を植え、葉を繁らせていこう。「言語文化」の本質をやさしく説く巻頭随想。（『新編 言語文化』(言文706)）



言葉によってコトバを学ぶ



わかまつ えいすけ
若松英輔

一九六八(昭和四三)年生まれ。批評家・随筆家。主な著書に、『批知の詩学』小林秀雄と井筒俊彦『イエス伝』『小林秀雄』『美しい花』詩集『見えない涙』『愛について』など。

言葉は用いるものであるだけでなく、出会う相手でもある。言葉は学ぶものであるだけでなく、生きてみなければならぬ人生からの問いでもある。

哲学者の井筒俊彦は、あるときから、言葉とは別の意味を込めて「コトバ」と書くようになった。コトバとは、言語を包み込みながら超えて行く意味の顕われを指す。

人は、言語だけでなく、さまざまなコトバから意味を感じ取っている。ある人にとっては音がコトバであり、別な人には香りがコトバになることもある。誰がつくったのか花言葉という習わしも、花もまた、一つのコトバであることを証している。

知命に近くなってきた頃から、詩を書くようになって。書こうと意志したのではなかった。詩を書かねばもう、一歩も前に進めない、そう感じていた。伝えなくてはならなかったおもしろい、あるいは受け止めきれな

はたらくのは沈黙であり余白である。言葉ではなく、コトバなのである。

コトバを中軸にして言葉によって描き出された、文字による絵画、それが詩なのかもしれない。絵を見て感動したときの心持が、探していた詩に出会ったときの感慨に似ているのは偶然ではない。絵は、色と線によって紡がれた詩でもあるからだ。

詩を書くようになると、詩に出会うようになる。詩との出会いを見過ぎさなくなる。どこからか風が運んでくる香りに季節の到来を感じるように、詩によって運ばれてきたコトバに自らの人生の季節を照らし出されることがある。

わたしは ひとしずくの涙
ひそかに流された涙の そのなかの
いちばん赤い 深紅の哀しみ
土のなかに深く深く浸みとおって
四月にふたたび よみがえったの

韓国の詩人姜恩喬の「つつじ」と題する作品にある一節である。訳者は茨木のり子。「わたし」と記されているのは「つつじ」で、日本では白いつつじも目に

かったものの断片が、言葉にならず、コトバのまま、自分のなかで生きているのを無視できなくなっていたのである。

気がつけば、一冊の詩集になるほどの作品が手元にあった。それまでは、一度詩を書いたことがあるだけで、詩が自分の人生にこれほど強く結びつくとは考えてもみなかった。たとえ詩を読んでも、何かのためであって、心から味わうということはなかった。

真の意味で詩と出会うには、幾多の詩集を繙くだけでは十分ではない。拙くてもよいから詩を書いてみなくてはならない。人は、真に必要な言葉を自分の手によって紡ぎ出すという、ある種の本能を宿している。

ここでの詩は、必ずしも口語自由詩に限らない、短歌、俳句はもちろん、詩情を宿した散文もまた、詩であるといつてよい。

詩は言葉だけでは成立しない。そこでもっとも強く

するが、韓国で、つつじといえは、深紅のそれをいう、と茨木のり子は書き添えている。

人生の冬、誰もいないところで誰かが流した涙が、春になり、「つつじ」となって人を慰める。悲しみを真に癒すのは、もう一つの悲しみだというのだろう。

この詩に出会ったとき、自分がのちに詩を書くようになるなどとは思ってもみなかった。しかし、この一篇に出会い、悲しみに色があることを知った。そして、悲しみは種子であり、季節がめぐれば、それは花となって新生することを知った。

私たちは世界を理解するために学校で文字を勉強する。だが、それは始まりに過ぎない。学校はいつか卒業せねばならず、誰もが自分の人生を生き始める。

日々の生活は、言葉によって導かれる。だが、人生という旅を歩き通すためには、言葉が読めるだけでは十分ではない。大切な人の心にあるおもしろい、自分の心の奥にあるものも、言葉ではなく、コトバの姿をしていることが少なくないからである。

詩とは、言葉によってコトバを学ぶことにほかならない。詩とは、コトバの助けを借りて、言葉にならないものを言葉によって表現しようとする無謀な試みでもある。

「文字の深秘」

「読書とは、文字を通じて行われる亡き先師との対話である」。他者との時間を越えた対話を可能にする文字の深秘に触れ、読書の意義を問い直すエッセイ。(『言語文化』(言文705))



コミュニケーションに必要なこと



こうかみしょうじ
鴻上尚史

一九五八（昭和三三）年生まれ。
作家・演出家。一九八一年に劇団
「第三舞台」を結成、劇作・演出
を手がける。主な著書に「発声
と身体のレッスン」「表現力のレッ
スン」「不死身の特攻兵」など。

「コミュニケーションがうまい人」を、多くの人は「誰
とでも簡単に仲良くなれる人」と思いがちです。
でも、本当に「コミュニケーションがうまい人」と
は、「ものごとがもめた時になんとかできる人」のこ
とです。

ものごとは、真剣になれば必ずもめます。もめるこ
とは、決して悪いことではないのです。

これも、多くの日本人は、「もめることは無条件で
悪いこと」と思っています。だから、自分の気持ちを
ぐっとガマンして、なるべくもめないようにします。

友達と旅行のプランを話し合う。クラブ活動の練習
方法を相談する。文化祭の出し物について議論する。

真剣になれば、必ず、ぶつかります。それは当たり前
のことなのです。

この練習方法が自分たちを強くするんだと真剣に考
える人がいて、それとは違う練習方法こそが私達を強

くするんだと考える人がいる——お互いがまったく別
なことを真剣に提案することは、普通に起こること
です。

多くの日本人は小さい頃から「人に迷惑をかけるな」
と言われて育てられてきます。とにかく、「迷惑」を
かけることが最もやってはいけないことだと教え込ま
れるのです。

だから、ぶつかることが無条件で「迷惑」だと思
い込み、絶対にやってはいけないことだと思ってしまう
のです。

でも、あなたがクラブ活動で、絶対にこの練習方法
が自分達を強くすると真剣に考えた時、それと反対の
ことを考えている人には、あなたの真剣な提案は「迷
惑」だと感じます。同時に、相手の真剣な提案は、ま
ったく反対のことを考えているあなたからすれば「迷
惑」です。

何度も繰り返しますが、そうやってぶつかることは、
「当たり前」のことなのです。

誰かの真剣は誰かの迷惑になるのです。

そして、ここからやっとコミュニケーションが始ま
るのです。

迷惑だからと、自分の提案を取り下げてしまつては、
ただの0です。「何が何でも自分の提案を受け入れる、
これは命令だ！」と押しつけてしまつたら100です。で
も、コミュニケーションは、0と100のどちらでもない
のです。

もめて話し合い、お互いにつつかり、歩み寄り、興
奮し、冷静になり、お互いの着地点を見つけることが、
コミュニケーションなのです。

日本語で言えば「対話」です。日本人はとても「対
話」が下手だと僕は思っています。

自分を完全になくして0になるか、押しつけて100に
なるかしかないことが多いと僕は思っています。

もちろん、とことん話し合つて、どちらかが「私は
完全に間違つていた。あなたの提案がいいと思う」と
なれば、100になるでしょう。でも、お互いが充分に考
えて、真剣に提案した場合は、なかなか、こんな分か
りやすいことにはならないと思います。

だからこそ、お互いが同じぐらい納得して、同じぐ
らい妥協して、同じぐらい満足する着地点を見つける
ことが、本当のコミュニケーションなのです。

つまりは、0か100かではなく、67点とか54点とか89
点とかで着地する点を見つけることです。もちろん、
両方がまったく譲らなければ、同じ程度妥協して50点
となるでしょう。

私達は、一人一人違います。今流行りの言葉でい
えば「多様性・ダイバーシティ」です。

時代は「協調性」から「多様性」に向かって進んで
います。それは、世界的な潮流で、元に戻すことはで
きないことです。練習方法に熱心な人は、You Tube
で、アメリカ人の指導方法を見つけてくるかも
しれません。別な人は、ドイツ人の指導方法を見つ
てくるかもしれません。私達は多様性の中に生きてい
るのです。

でも、大丈夫。コミュニケーションは技術です。や
ればやるだけ上達します。スポーツと同じです。最初
は戸惑い、お互いの着地点を見つめることに苦労する
かもしれませんが、それでいいのです。その試行錯誤が、
コミュニケーションを上達させるために必要なことな
のです。

「コミュニケーションは技術だ」

コミュニケーションはあくまでも技術であり、
スポーツと同じく、やればやるだけ上達する。
コミュニケーションに悩むすべての人の背中を
押す随想。（『新編 現代の国語』（現国 707））



国語力は財産



ジェーン・スー

一九七三（昭和四八）年生まれ。コラムニスト、ラジオパーソナリティ。主な著書に、「貴様いつまで女子でいるつもりだ問題」「女のお悩み動物園」「生きるのか死ぬのか父親とか」など。

はじめまして。ジェーン・スーと申します。コラムやエッセイを書いたり、ラジオパーソナリティをしたりで生活しています。

「読者は高校の国語の先生方ですが、その先にいる高校生に伝えるイメージで執筆を」との依頼でしたので、生徒さんに向けて、国語力はなよりの財産であることについて書きます。

さて、結構な大人になるまで私は実感できませんでしたが、世の中には目減りする可能性がそこそこある財産と、そうでもない財産があります。

目減りする可能性がある財産は、いわゆる金品。現金、株式、債券、小切手などの金融資産、不動産などの物的資産、売ればお金に換えられる物品。お金持ちがたくさん持っていると言われるものです。

一方、個人が持つ知識、技能などは、金品と比べ他者から奪われる可能性が低く、自分の力で増やすこと

ができる。これらは人的資本と呼ばれています。経済学の用語だそうで、個人に属する能力まで経済資本と見做すのは風情に欠けると思わなくてもいいですが、広義の財産ではありません。

他者から奪われにくい、個人に属する人的資本ならおしなべて目減りしないかと言えそうですが、人づきあいを疎かにすれば人間関係は綻んでいくし、知識や技能には鍛錬とアップデートが必須となります。しかし、すべての金品を失っても知識や技能は手元に残ります。取得や保持に経費や時間は掛かるものの、取得したのち税金が掛からないのも素晴らしい点です。大人になればわかりませんが、所得税はエグイ。市民の健やかな生活のため有意義に使われることを願ってやみません。

話が逸れました。一旦、知識や技能を自分の力で増やすことができる財産と仕分けはしましたが、これらしよう。私も高校生の時はそうでした。しかし、大人になってわかったことは、国語力はすべての学術だけでなく、娯楽を十二分に味わうためにも重要な役割を果たすという事実。

読み解き、考えを言語化し、伝える力を養って初めて「わたし」という自己が形成され、娯楽コンテンツと対峙できるようになります。コミュニケーションも国語力は不可欠で、それが得意か否かで、生きやすさはかなり変わってくると思います。国語力は財産。習得しておいて損はありません。

最後に、教員の皆さまにひとつお願いがあります。改めて、感想文の書き方を生徒さんに教えていただけないでしょうか。「読書」感想文である必要はないかもしれませんが。現在の国語教育に明るくないため筋違いでしたらご容赦ください。しかし、私が記憶する限りでは、感想文の書き方を丁寧に習ったことがありません。習練が最も必要な課題であるにもかかわらず。学校が生活のおおよそを占める高校生にとって、「好き／嫌い」以外の自己主張はまだまだハードルが高い。それ以外の語彙で考えを表す鍛錬ができる場が、感想文だと思うのです。アウトプットできてこそ国語力。何卒ご検討のほどよろしくお願いいたします。

『伝える』の先にあるもの

「しゃべる」「読む」「伝える」の違いは？ 古典落語を見ていて気づいた、「伝える」ことの奥深さ。伝え方の工夫について、生徒が考えを深めるきっかけに。（『現代の国語』（現国 706））



にはひとりゼロからイチにするのがとても難しいという特徴があります。インターネットがあればたいはいの情報にはリーチできるようなはなったものの、玉石混濁の情報を読み解く力がなければ、ブラウザに載った文章はただの文字列としてしか認識されません。生きていく上で必要不可欠となる、読み解く基礎力。その種を植えるのが、教育の存在意義だと思えます。国語の授業では、作者以外が正解を決める「作者はなぜこう思ったのか」という不思議な問題もありませんが、これは出題者に読み解く力がある前提のもとに成り立っています。忘れてはならないもうひとつの前提は、作者には伝える力があるという点。この「伝える力」を養うのが、読解力がある程度つけた状態で入学する高校の役目だと思えます。

読み解く力をインプットとするならば、伝える力はアウトプット。どちらが欠けても十分とは言えません。SNSがわけのわからないことになっている時は、たいてい国語力の欠如が原因。SNSには大人も大勢おられます。彼らの存在は、大人になるだけでは国語力が自動的に身につくわけではないことの証左でもあります。

勉強なんて興味ないし、という方もいらっしやるで

比較読みのできる多角的な学び

佐藤 正人

東京都立江北高等学校

■はじめに
「現代の国語」の「読むこと」では、文章の構成・展開を的確に捉え、要点を把握することに加えて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら読み、自分の考えを深めることが目標とされています。これらを達成するための活動として、複数の文章の比較読みが考えられます。

今回は、大修館の『現代の国語』（現国706）を使った授業のアイデアをご提案します。第九単元の「空気を読む」（香山リカ）と『個人』から『分人』へ（平野啓一郎）を比較し、それぞれの主張の共通点と相違点を、根拠をもって捉え、考えたことをお互いに交流しながら、考えを深めることを目標にします。

■教材の内容と比較読みの視点
「空気を読む」では、現代人が自分自身のあり方を、集団に合わせるふるまいを消極的なものと捉えているのに対し、『個人』から『分人』へ」では、様々な集団で使い分ける分人をそれぞれの場で通じる人格として積極的なものと捉えている点です。

一方、二つの文章の主張の重なる点としては、現代人特有の虚無的なコミュニケーションがなぜ起きるのかに着目して、コミュニケーションそのものを、個人の単位ではなく、場や、人と人との関係性から捉えなおしている点にあると考えられます。

右のような共通点と相違点に着目させることで、生徒の考えを深めながら、意見の根拠に着目する必要性を理解させることができるのではないのでしょうか。

また、限られた時間数の中で目標を達成するためには、生徒の実態に応じて、授業で扱う本文の範囲を限定することも考えられるでしょう。

■単元計画の流れ（3時間）

* 予習課題

①二つの文章を読み、段落で重要な一文に線を引く。
1時間目

②単元の目標を知る。

・現代人が自分の考えを伝えることが不得意だと考える理由を考える。また、どうすればそれを解

その時の流行や状況に合わせて操作しなければならないと感じていて、自由であることや自分の考えを発信することを放棄していると指摘しています。その理由として、自分だけまわりと違う意見を言ってしまうことで、その場の「少数派」になるのがこわいという気持ちが見えられています。

『個人』から『分人』へ」では、筆者は対人関係ごとに生まれる個々の人格を「分人」と名付けます。そしてそれぞれの「分人」を使い分ける現代人の姿から、様々なことが説明できると指摘しています。文中では、「もし人格がたった一つの排他的なものであるならば、その変化は過去の人格の否定である。しかし、複数の維持することが可能ならば、昔馴染みとは彼らとの分人のまま、その都度、つきあうことが出来る。」としています。

二つの文章の異なる点は、「空気を読む」では個人が

決できるのかを考える。

③主張・論拠（理由づけ）・根拠について理解する。
2時間目

④二つの文章の主張と根拠を捉える。（個人）

⑤④で考えた個人の考えを共有する。（グループ）
3時間目

⑥主張と根拠の共通点と相違点を整理する。（個人）

⑦⑥で考えた個人の考えを共有する。（グループ）

⑧1時間目で考えた問いについて再考し、自らの考えの変化の有無について考察する。

⑨目標について自己評価を行う。
* 以下は授業内で行えない場合は家庭学習の課題としてもよい。

⑩二つの文章の要旨を作成する。
* 評価は、行動観察、ポートフォリオ、レポート、調査等で行う。

■おわりに

二本の文章を読み比べれば、教室内でも様々な意見が生まれやすくなります。そのような意見を生徒同士で交流させることも、この活動の醍醐味です。

比較読みの学習を設定することで、教材一つだけでは得られない、多角的で深い学びを実現できるでしょう。

現代と古典とをつなげる授業

知識の概念化と活用のレッスン

ながたさとみ
永田里美

明星大学准教授

「言語文化」の目標には「我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち(目標③)」という文言があります。言語文化の担い手となるためにはどのようなことが必要でしょうか。その一つとして、知識の活用を挙げることが出来ます。それは我が国の言語文化を知識として理解するだけに留めず、その知識を社会の中で生きて働くものにする事です。そのためには、古典の知識を、現代を生きる私たちの世界につなげて捉えることが重要となるでしょうし、また、授業を通して得られた知識は暗記をしてテストで確認されるものではなく、生きた知識として活用されるものであると捉えていく必要があります。

言語文化についての知識や教養を概念化し、社会の中で生きて働くものにするためには、より多くの文化的事例にふれ、それらを抽象化する作業が必要となってきます。とはいえ、実際の授業において、その作業をどのよ

うに進めれば良いのか、不安を抱いておられる方も多いことと思います。

そこで、ここでは大修館書店『言語文化』(言文70)に所収された「実体の美と状況の美(高階秀爾)」をもとに古典の和歌とつなげる授業を提案したいと思います。

この文章は古今東西の豊富な事例に基づいて、日本の文化における美意識の特徴が論じられています。言語文化を分析する視点や手法が鮮やかなこの素材を使うことで、古典と現代とをつなげる言語文化の視点——今を生きる私たちの世界に息づく言語文化への気付き——が得られる授業を展開することが可能です。

■「実体の美と状況の美」を用いた知識の概念化と活用のレッスン

授業全体の流れは以下の通りです。ここでは全五時間を想定しました。

1	導入	伝統的な美意識について自分なりに考えてみる
2	展開	〈本文理解・内容整理〉 東西の美意識の相違や「状況の美」について理解する
3	展開	
4	発展	〈知識の活用〉 「状況の美」を和歌の言葉から見出す
5	まとめ	第四時での分析を共有し、知識の理解と活用についてふりかえる

※古文編の和歌が既習内容ではない場合は時間数にゆとりをもたせる。

◇第1時 「実体の美と状況の美」を読むにあたり、我が国の伝統的な言語文化にどのような美意識が見出されるのか、身のまわりのものを例に考えてみることから始めます。伝統的に美しいとされるものや、美しさを感じるものを挙げ、共通する美意識とは何か? という問いをきっかけとして、伝統的な美意識について話し合ってみましょう。(『言語文化』「言語文化の窓②」参照)

本文を読む前にタイトルの意味を考えたり、論の展開として対立構造への注意を促したりするのも良いでしょう。本文への興味関心の緒を掴んだ上で、本文を一読し、自分なりに内容を整理しておきます。

◇第2・3時 本文に挙げられた事例と筆者の結論を表

抽象化	具体例	
「状況の美」とはつまり、状況が変われば消えてしまいう美である。日本人は、万古不易の美ではなく、うつろいやすいもの、はかないものという感覚を美意識として大切にしてきた。	作品	作品に描かれる事物(状況)
	芭蕉の句	古池に蛙が飛び込む瞬間における深い静寂の世界
	枕草子	春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿
	広重の名所江戸百景	江戸の町と自然との結びつきによって生まれた名所

にまとめて整理をしてみよう。可視化によって具体的な内容が抽象化されやすくなります。また、こうした思考の整理方法は次の第4時で活用することができます。

例 本文で挙げられた古典作品・絵画に見られる「状況の美」を表に整理してみる

◇第4時 修得した知識を活用する授業へと展開させます。本文に登場したもの以外で、日本人の美意識を示す具体例を考えることがねらいです。

たとえば、「花(桜)」を糸口に、人々が自然と深く接する中で生まれてきた言葉が考えられます。(『言語文化』「言葉のタネ②」参照) 本授業案では和歌における事物

をとりあげ、それがどのような「状況」で詠まれているかを調べ、「実体の美と状況の美」で理解した美意識についての知識と照らし合わせてみることにします。↓古文の和歌につなぐ例

季節に関する事柄を扱った和歌に詠まれた「事物」を「状況」に関連させながら説明してみよう（言語文化）古文編「四季の移ろい」参照。個人もしくはグループで和歌中の「事物」を選び、それが他の和歌ではどのように詠まれているか、調べてみることにし、知識の活用の仕方が深まるとともに、知識の一般化が得られます。

【例】桜を事物として詠んだ歌を調べ整理してみる（下段表）調べた和歌のなかに「うつろいやすいもの、はかないもの」に対する美意識が見出されるか、また、「現代人の美意識にそのままつながる感覚」であるかどうか話し合ってみよう。

※古文の全ての和歌を分析対象とする必要はなく、花鳥風月のように題材として調べやすいものを選択するよう促すとよい。

抽象化	具体例	
いずれも、桜の散る様子や：が詠まれており、うつろいやすさ、はかなさへのまなざしが読み取れる：（略）：私たちが桜を愛でるときは、桜の花という実体そのものよりは景色に着目している。	作品	作品に描かれる事物（状況）
	世の中に絶えて桜のなかりせば：古今 春下・五三	桜の開花から散るまで、それぞれに心が動かされる様子（など）
	春霞たなびく山の桜花うつろはむとや：古今 春下・六九	春霞のなか美しく咲いていた山
	残りなく散るぞめでたき桜花：古今 春上・七一	桜の色が変わって行く様子（がすばらしいとする）

◇第5時 前時間の調査と考察内容を発表し、共有します。共有された内容を自分なりにまとめ、今を生きる私たちの生活の中で伝統的な美意識がどのように受け継がれているか、考察を深めます。

日常生活のなかには、私たちが受け継いできた景色や物事がたくさんあります。大修館書店『言語文化』には古典と現代とをつなぐ様々な素材が所収されています。それらを往還することで、生活の中に息づく文化への気付きと考察の手立てが得られるはずです。

新課程の授業 「読むこと」③

「言語文化」で楽しく学べる古典のイロハ

「言語文化」の「読むこと」では、40〜45単位時間を古典、20単位時間を近代以降の文章が担う。「言語文化」という科目は、現代を生きる高校生が、過去から未来へ連続と繋がる言語文化について理解し、継承していくものであるため、逐語訳や品詞分解に終始する古典学習ではなく、現代へと繋がる学習に必要がある。

本授業案では、年度初めを想定し、大修館『新編言語文化』（言文706）に掲載されている古典の入門教材を用い、古典に親しみながら読解のための基礎的な知識や学び方の定着を目指した。

■「児のそら寝」で古文の学び方を知る

古文編の第一単元最初の物語は「児のそら寝」である。大修館の『新編言語文化』の第一単元には傍訳が付しており、徐々に少なくなる構成になっている。まずは内

石鍋雄大

いしなべゆうだい
東京都立大泉高等学校
附属中学校

容理解は傍訳を参考に行い、古文を読むための表記のきをまりを理解することや解釈することに集中したい。

〔授業案〕 2時間扱い

第1時 導入・音読・内容を四コマ漫画にまとめる
第2時 児と僧の心内語を考える

〔目標〕
知識及び技能 (2) ウ
思考力、判断力、表現力等 B読むこと (1) イ

第1時では、音読を通じて古文の読み方を理解し、リズムに慣れることと、大きく内容をつかむことを中心に学習する。音読の前には、歴史的仮名遣いについて確認しておくといだろう（この教科書では、「古文の言葉と歴史的仮名遣い」についてコラムでまとめられている）。そ

の際、活用を考えるとときに必要となる五十音図に付箋を貼るなどして、生徒が自分で適宜参照できるようにしたい。また、音読はリズムや表現に慣れるために何度も取り組ませたい。例えば、範読に続いて読むだけでなく、次のようなバリエーションが考えられる。

- ・ペアで句読点ごとに交代しながら読む
- ・立ち上がってなるべく速く読み、終わったら座る
- ・一字でも間違えたり詰まったら最初からやり直す

また、内容理解や言葉の意味の把握を目的とした次のような音読の方法もある。

- ・一人が原文を読み、もう一人がそれに対応した現代語訳を読む
- ・一人が地の文を読み、もう一人が台詞・心内語を読む

繰り返し音読することが、古典に親しむ第一歩であるとともに、内容理解にも重要な役割を果たすことを入門期の生徒にこそ伝えたい。

生徒の内容理解を確認する方法としては様々な手段があるが、四コマ漫画にすることは楽しみながら全体の展開を考えることとなり、入門期には効果的である。「兎のそら寝」は、作品に分かりやすいオチがあることに加え、傍訳がついているため、多くの生徒が自分の力で取



▲「新編 言語文化」(言文706) p.226
漢文編 第一単元「訓読のきまり」

思考力、判断力、表現力等 B読むこと(1)ア
 故事成語は、その成り立ちを読み取り、意味を考えることが必要だ。「守株」では、基本的な訓読の仕方を定着するとともに、話の展開を考えさせたい。
 例えば、原文を二行ごとに切り取り短冊にし、並び替えさせることで話の展開を考えながら読むことができるとは、具体的には、配られた短冊を書き下し文にし、訓読のきまりを確認しながら、「而」、「不可」などの重要語や構文を確認する。短冊ごとの意味を考え、並び替える。短冊の順番をペアで確認し、「守株」を元にした童話「待ちぼうけ」(北原白秋)を参考にするなどして、順番の適否を確認する。「守株」の教訓を

り組むことのできる活動になるだろう。

第2時には、細かな読解と解釈に取り組みたい。この作品では、兎の思いと僧の思いを捉えたい。兎の思いは傍訳を参考にしながら心内語を押さえることになるが、教科書に直接傍線や括弧を書き込んでもよいだろう。一方、僧の心情は直接書かれていないため、解釈が必要となる。具体的には「笑ふことかぎりなし」の理由を考える中で、そら寝に気付いていた場合と気付いていない場合に分けて、本文を根拠に考えたい。

■故事成語で漢文の学び方を知る

古文も漢文も読むための文法的な知識は当然必要だが、なるべくコンパクトに、読解に必要な場面適切に理解させたい。この教科書の漢文編では、第一単元に基本的な訓読のきまりがまとまっている。適宜参照できるように指示しておきたい部分だ。

〔授業案〕2時間扱い

第1時 導入・訓読のきまりを知る

第2時 「守株」の教訓を考える

〔目標〕

知識及び技能(2)ウ

考え、辞書で意味を確認する。時代を超えて「守株」という言葉が形を変えながらも使われていることを理解させるという流れである。

生徒の活動としてはここまででも良いが、教員としてはもう一歩踏み込んだ解説を行いたい。韓非子は、古の聖人を参考にした徳治主義の考え方に対し、移り変わる現実に対応した統治を行うべきだという批判的な文脈で「守株」の寓話を展開している。多くの生徒が中学で学んでいる「矛盾」でも韓非子による類似した批判がなされている。生徒の実態に応じて、「矛盾」に言及して発展的に調べさせる学習も可能だろう。

入門期には、教科書をどのように使って学習するかを丁寧に教えることが必要だ。目標や脚注をしっかり読むこと、重要語句は調べること、「学習のポイント」に取り組むことで内容理解を深めることができることなどを生徒は知らない。入門期に、教科書を丁寧に取扱うことで、年間を通して生徒が能動的に学習を進める姿勢と環境を作りたい。

【参考文献】塚田勝郎「新人教師のための漢文指導入門講座」

(大修館書店、二〇一四)

「話すこと・聞くこと」の基礎力を身につける授業案

やまぐちまさかずみ
山口正澄

東京都立大江戸高等学校

「話すこと・聞くこと」の指導は、他の「読むこと」「書くこと」の領域に比べると、これまでの授業の経験から負担や大変さを感じるのではないだろうか。例えば従来から評論や小説の単元で話し合いの活動を取り入れる授業が多くなっていますが、その活動は読みを深める目的になっている場合があります。これからは「話すこと・聞くこと」自体の学習とその力の定着が目的となる指導を意識した授業が大切です。大修館書店の『新編 現代の国語』（現国707）には、「読むこと」「書くこと」と共に「話すこと・聞くこと」の領域も、幅広い学力層への指導に対応する基礎的な学習活動が多く設けられています。本稿ではこの教科書を使った基礎力を身につける授業案を三つ記します。

■伝わりやすい話し方を意識する
まず授業の目標と活動内容を確認して学習の見通しを立てることから始めます。教科書には「目標」「学習活動」が示されています。ここでは、相手に伝えたいことをわかりやすく整理して話すためのポイントを知り「話すこと」の基礎力を付けることを目標にします。

教科書には、問診に答える患者の応答例として、伝わりにくい説明と伝わりやすい説明の二例を並べ、それらを開き比べて「伝わりやすい話し方」について考えるワークが位置づけられています。いきなり話させるのが難しいければ、このように良い例と悪い例を比較して違いを具体的に考えさせましょう。活動の展開案として、できれば聞く側が教科書の文章を見ないで聞き比べに集中させてから伝わりやすさの理由を話し合わせたい活動ですが、例えば進路多様校や定時制課程の授業で扱う場合は

発展学習に取り組んでもよい

2 具体的なチェック項目で学習の到達度を認識する

ポイント(下段)を参照しながらワーク(上段)に取り組む

目標と学習内容を確認し学習の見通しをもつ

▲『新編 現代の国語』（現国707）pp. 36-39を使った授業の流れ

文章も見せたほうが話し合いをしやすくなるでしょう。伝わりやすい理由について話し合い共有することによって、生徒の中で唯一解に留まらず納得解を追求する活動にもなります。

■内容のまとまりを考えて話す

次は、もう少し長く込み入った内容を整理して実際に話す活動です。教科書では、体育祭の種目出場者を決めるホームルームの場面を例にして、誰が最もわかりやすく伝えられるかを競う「話し上手コンテスト」が設定されています。単純なロールプレイだけでなく、このようにゲーム形式にしても授業が盛り上がりやすくなります。生徒の実態に即して、ペアワークやグループ内の小さな活動にしても、各グループから選出された代表生徒で競う大きな活動にしてもよいでしょう。さらに、読み上げ原稿として修正すべき内容を書き直す学習もすれば原稿用紙の使い方が復習できますし、教科書に「ポイント」として示されている「話のまとまりを考える」「話題の数をあらかじめ示す」を具体的な観点にして生徒同士で批評する学び合いにもつながります。まとめとして、教科書教材末のチェック項目を使って振り返ると、各自で学習の到達度を認識できます。時間に余裕があれば、教科書に発

展的な活動例「トライ」として示されているように、別のテーマを生徒独自に考えさせて話すことまで行えること、より主体的で深い学びになるでしょう。

■情報を整理しながら聞き取る

「聞くこと」の基礎力を身につけるために、実際に音声を通してリスニングさせる活動にも取り組みましょう。教科書では、文化祭委員から放課後の買い出しを頼まれた場面を例にして、依頼内容を整理しながら聞き取るワークが設けられています。教科書紙面に記載されたQRコードから音声を聞くことができますので、まずは教科書を閉じて音声を聞かせましょう。聞き取った内容から何をどの順番ですればよいのかという情報整理を意識させることが大切になります。さらに、依頼内容を聞き取る前に、教科書に「ポイント」として示されたメモのとり方以外の速記方法として「キーワードで残す」「書く文字を小さくする」といった例を伝えておくのもよいでしょう。発言内容の全てを限られた時間内に書き取る



▲当該単元の教科書紙面に記載されているQRコード。ほかにも、「話す・聞く」の学習に使える音声や動画へのリンクが豊富に掲載されています。

のは困難ですから、後で話の内容を思い出せそうな大事な言葉や固有名詞などをキーワードとして残して簡条書きにすると能率的です。また、書く文字を小さくする方法によって書き取れる速さが増すので、読み返せる程度で小さく書く練習もできます。スマートフォンやタブレット端末が普及している現状では、それらの文字入力のほうが速く記録できる場合もあるので、時間に余裕があれば手書きのメモと使い分けをさせてみるのも有効です。これらのメモのとり方は、この教科書の後のほうで出てくる「ミニインタビューをしよう」や「聞き取ったことをまとめよう」の学習でも活かされます。

以上が「話すこと・聞くこと」の基礎的な力を身につける授業展開の拙案です。基礎から発展させた活動内容は新学習指導要領に、「話すこと」では「目的に応じた話題決め」「立場や考えを明確化」「反応を予想した展開」「理解が得られる工夫」などが、「聞くこと」では「論理の展開を予想し評価して考えを深める」といったことが書かれています。これらの力を身につけるための授業計画や、単元の目標と評価の観点を意識した指導が求められます。これらの点に留意しながら、来年度からの新しい授業構想を膨らませてください。

新課程の授業 「書くこと」

「正確な情報」と「魅力的な情報」を使いこなす
— 学校行事の企画書で書く力を鍛える —

よしだ とうよう
吉田 東洋

東京都立新宿山吹高等学校

■単元のコンセプト

新課程では、科目構成や教科書が変わるだけでなく、「総合的な探究の時間」との接続、教科横断、はてはSDGsなど、国語科に多くの重責がのしかかっている。時にそれらすべてを一身に背負いつつ、「現代の国語」であれば、わずか二単位の中で、生徒の諸能力を育成していかなければならない。それを実現するためには、国語の授業以外の、特別活動や学校行事との連携を視野に入れることが肝要になるだろう。

本稿では、「説得力のある資料をつくる」「大修館書店「現代の国語」（現国706）」をもとに、生徒たちがお互いにプレゼンテーションをしよう機会に取り入れやすい「企画書」を利用した「書くこと」の指導案を紹介したい。文化祭のクラス企画や修学旅行先の提案など、生徒たちが意思決定をするためにお互いにプレゼンテーションをし

合う機会を利用した学習である。

企画書を書く力を育成することは、それ自体が実社会で役立つことに加え、他者に情報を正確にかつ魅力的に伝えるにはどうしたらよいのかを生徒自身が考えるよい機会になりうる。新学習指導要領でも、「書くこと―エ」に「目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて」とあり、「他者を惹きつける」といった目的達成のために単なる説明・記述以上の工夫をする態度を養うことが求められている。

本単元では、企画書の体裁を利用して、企画の内容が伝わるような「正確な情報」と、企画コンセプトを心に響くように伝えられる「魅力的な情報」の二点を考えるように指導していく。

■単元の流れ

第1次	第2次	第3次	第4次	第5次
企画書に必要な要素を考え、自分一人で企画書を書く。	4〜6人のグループをつくり、グループ内で回し読みをしつつ企画書をブラッシュアップする。	グループ同士で企画書の束を交換し、相互評価する。 *「情報の正確さ」と「コンセプトや表現の魅力」の二軸で評価させる。	各グループで最も推したい企画書を一つ選出し、企画書の洗練とスライドの作成を行う。	プレゼンテーションソフトと企画書を利用して発表し、全生徒による投票を兼ねたフィードバックを行う。

学習活動

■学習のポイントと指導側のサポート

たとえば文化祭でのクラスの出し物を考える場合、企画成立のためには実施する「場所」「時間帯」や「運営や準備の流れ」「役割分担」「必要物品（予算）」などの

《表現の工夫の例》

- ①前提・常識を疑って問いかける
【修学旅行】人生一度の高校生活、全国の高校生とカブるのはもったいなくない？
- ②選択・比較させるために列挙する
【文化祭】あげたいのは売上？ フライドポテト？ みんなのテンション？
- ③対句表現で強調する
【文化祭】ホットドッグが売りたいのではなく、湯島高文化祭を彩りたい。
- ④希少性を強調したり、好奇心をくすぐったりする
【修学旅行】修学旅行先人気ランキング最下位はご存じですか？ もしも私たちの宣伝でランキング上位になったら？
- ⑤メリットや効果を挙げる
【修学旅行】移動や宿泊が安ければ、体験や食事にお金がかかられます。
- ⑥具体的な数字で想像力をかき立てる
【文化祭】入場後一五秒でへたり込むお化け屋敷を作れたら伝説になるのではないだろうか。

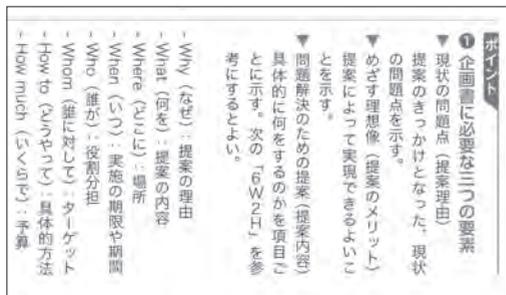
なお、本教科書には、参考文として、宮崎駿監督による、『となりのトトロ』の実際の企画書が掲載されている。企画書の要素を押さえつつ、魅力あふれる内容になっているので、学習の動機づけにぜひ活用したい。

要素がなくてはならない。物事を構成する要素を考えさせて、企画成立のために必要な情報を想像させることは、企画の内容を正確に伝えるための情報を生徒が考える機会となる。まずは生徒自身に考えさせ、相互交流の中で「正確に伝わるかどうか」を検証し合い、その後教師が企画を構成する要素を集約したり提示したりすることが指導上のサポートとして求められるだろう。

教科書の「ポイント」(171ページ)にある、6W2Hを意識させていきたいところである。

次に、企画自体の魅力

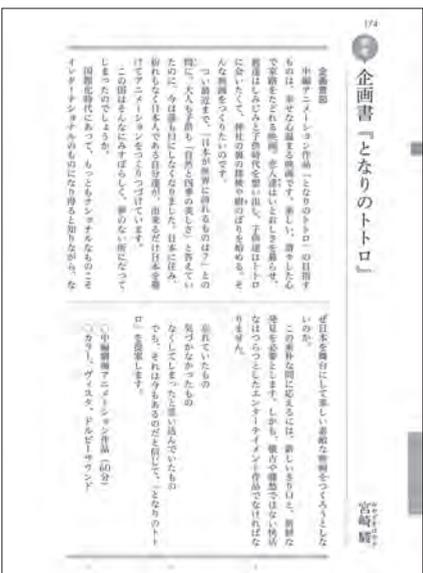
を言葉で伝えなくてはならない。趣旨・コンセプトや提案理由などを説明する際に、正確性を重視しすぎると味気ない無機質な記述になってしまうがちである。読み手にとって魅力ある内容にするために、表現の仕方に工夫を凝らす必要があるだろう(《表現の工夫の例》参照)。



▲企画書のポイント(『現代の国語』(現国706) p.171)

■活動の接続

今回の指導案では、企画書の完成後にプレゼンテーションの機会を設けている。わずかに二単位の中で、プレゼンテーションのためだけに別単元を設けるのは得策とはいえない。活動をうまく接続することによって、時間を効率よく使うだけでなく、書き言葉と話し言葉の違いを考えたり、図やグラフ、発表の仕方などの非言語的なものの効果を考えたりする機会を設けることも可能になる。生徒には、最後のプレゼンテーションを見据えるよう適宜声かけをしていきたい。



▲企画書『となりのトトロ』(『現代の国語』(現国706) p.174)

活動の指針となる評価を考える

ぬりたよしえ
塗田佳枝

筑波大学附属坂戸高等学校

■新教育課程の評価と「話すこと・聞くこと」

来年度から始まる新教育課程では、単元で身に付けさせたい力を明確にし、授業の中で達成できたかどうかを評価する「指導と評価の一体化」が重視されています。また国語科も他教科と同様に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度(以下「主体的態度」)」の三観点で評価することになりました。

「現代の国語」では、「話すこと・聞くこと」の領域に20〜30単位時間程度が配当され、学習指導要領では身に付けるべき指導事項として五点が示されています。本稿では、「話すこと」の単元構想の一例として、大修館『現代の国語』(現国706)の単元6「工夫して話す」の学習活動をご紹介します。評価について考えたいと思います。

■スピーチ発表会―単元6「工夫して話す」

(1) 評価規準を決める

まず、単元でどのような「思考・判断・表現」力を育成するかを定め、そのために必要な「知識・技能」を考えます。すでに「話すこと・聞くこと」で説明や話し言葉の特徴について学んでいれば、スピーチの場合、教科書に示されている通り①構成や展開の工夫、②表現のしかたの工夫などの目標が妥当でしょう。これらを達成するためには文章の効果的な組み立てを理解し、話し言葉の特徴や表現の特色を踏まえて聞き手の興味を引く表現を使う「知識・技能」が必要です。

この段階では、評価規準の精選に気を配ります。指導要領では「知識・技能」「思考・判断・表現」とも複数の項目が該当しますが、一つの単元に多くの評価項目があると教員も活動する生徒も大変です。そこで「話すこ

と・聞くこと」の指導計画全体における本単元の位置づけを考えながら、各観点一〜二つに絞っていきます。

観 点	評価規準	指導要領
知識・技能	・話し言葉の特徴を踏まえ、わかりやすい表現や言葉遣いを使用している。	イ(1)
思考・判断・表現	・内容が効果的に伝わるよう、話の構成や展開を工夫している。	イ(1)
主体的態度	・自分及び他者の発表から、聞き手の興味を引く表現について進んで考えたり使用したりしようとしている。	

(2) 指導と評価の計画を立てる

次に、設定した規準について、どの活動で何をどのように評価するかを考えながら、指導計画を立てていきます。

計画する際、特に生徒の活動が中心になる単元では、①目標と活動の手順を明確にして生徒に伝えること、②段階を踏んでメインの活動に入ること、③活動から学んだことを振り返る機会を設けることに留意します。

②に関して、本単元ではスピーチの構想や構成を考えさせる前に、冒頭の工夫についてグループで考えるステップを設定しました。従来の授業は、教員が最初に解説した後、構成メモの作成から発表まで生徒任せということが多かったかもしれませんが、まずグループ

【指導と評価の計画(全3時間)】

時	主な学習活動	評価の内容と方法
0.5	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価とともに他者の発表も含めて気づいたことを書き出す。「個人」 ○(時間があればグループ)全体で共有する。「(グループ)全体」 ○単元を振り返り、学んだことをまとめる。「個人」 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの記述 【主体的態度】
1.5	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチを発表し合い、発表後1〜2名がコメントする。「全体」 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 【知識・技能】
1	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチを行う上で内容や構成、表現のしかたが重要であることを理解する。「全体」 ○聞き手を引きつけるため冒頭でどんな工夫ができるかを考える。「グループ」 ○構成メモを作る。「個人」 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ計画表の記述 【思考・判断・表現】

で話し合ったり練習したりさせてから、自分で考え、発表させるといった手順を踏めば、構成や表現の工夫の重要性をより理解でき、無理なくメインの活動に入れるでしょう。大修館の『現代の国語』には、そのための「ウォームアップ」や「ワーク」が用意されています。

評価については、スピーチを行う一分の間に前述の三項目を評価するのは至難の業です(経験上、一分の発表では「内容」「態度(表現方法)」等の二項目の評価が限度か



▲『現代の国語』（現国706）単元6 「工夫して話す」 p.90

パート (○秒)	内容・ねらい ※文章(原稿)でなく簡潔に箇条書きで！	話し方の工夫
はじめ Intro		
なか Body		
おわり Closing		

▲スピーチ計画表の例

と思います。録画という方法もありますが、後から見直すのは現実的ではなく、あくまで予備的手段にしたいところです。そこで、記述資料であるスピーチ計画表で評価することとし、発表時の項目を極力少なくします。

評価は各規準とも三段階または五段階で行い、この時点で各々の割合も考えておきます。また具体的な評価基準も決めておく必要があります。評価規準だけを示し、生徒自身に◎・○・△の具体例を挙げさせ、基準を作らせても良いでしょう。いづれにしても評価規準ないし基準は構成メモの作成の前に生徒に伝え、目標を意識して以降の活動に取り組ませます。

さらに資料の作りかたも、評価のしやすさに関わって

きます。構成や表現の工夫が見て取れる計画表や、振り返りの際に見直しまとめやすい発表記録シートを作ると、生徒の活動の支えとなり、評価も容易になります。

■「次に活かす」ための評価

「話すこと」の指導は、評価にかかる時間と手間を思つて二の足を踏む先生方もいらっしゃるでしょう。ただシンプルな評価項目と負担の少ない評価方法を考え、生徒と共有しておくことで、教員も生徒も迷子にならず、無理なく授業が進められます。評価には教員の指導改善とともに、生徒自身が学びを振り返り、次に活かす学習改善の意味もあります。互いに、その先の授業が楽しみになるような評価を工夫したいものです。

新課程の授業 「評価」②

1時間でもできる「書くこと」の授業

——ペアワークでわかりやすい説明文を書く——

しもにし みほ
下西美穂

東京都立江戸川高等学校

■「現代の国語」の「書くこと」

「現代の国語」での「書くこと」の授業。どのように進めていけばいいでしょうか。

「書くこと」については、最も多く30～40時間程度を配当するものとされています。つまり、「現代の国語」において、「書くこと」は非常に重視されているのです。

「現代の国語」の目標には、(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(以下略)とあります。また、「話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。」「読み手からの助言などを踏

まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。」「などと、その内容についても具体的に示されています。

■単元「わかりやすく説明する」

学習指導要領の言葉を並べると、指導が難しいような気がしてしまいますが、大修館書店の『新編 現代の国語』（現国707）には、指導要領が求める力を身につけさせるためのさまざまな、そして生徒にとっておもしろい教材が多く掲載されています。

たとえば、「わかりやすく説明する」という単元では、「読むこと」の領域として「説明のしかたをとらえよう」と、評論文が三本掲載されています。そこで、接続表現の効果的な使い方など、わかりやすい説明の仕方について学びます。特に最初の評論文「人間はゴリラとチンパ

点と点をつなぐ「読むこと」の授業と評価

ふるかわかな
古川佳奈

専修大学松戸中学校・
高等学校

はじめに

新しい学習指導要領は、予測困難な時代を生きる生徒たちが他者と協働して課題を解決し、情報を再構成して、新しい価値を生み出すことができるようにという趣旨で改訂されました。「読むこと」の指導においても、教材の読み取りに力点を置くのではなく、「何のために読むのか」「読み取ったことをどう活用するのか」を考える自覚的な読み手の育成が目指されています。

指導を工夫する上で同時に考えておきたいのは、どのタイミングで、どのように生徒の読みを評価するか、という問題です。そこで本稿では「言語文化」における「読むこと」の評価について、取り上げてみました。

■単元について

本単元は、一学期に行うことを想定しています。単元のねらいは、「複数の描写から読み取れることを

類推し、表現効果を考える」ことです。この、点と点をつなげ意味づける力は、「言語文化」について考える際に礎となる資質・能力だと考えました。「伝統」や「文化」は、具体的な事物ではなく、いくつもの事柄をつなぎ合わせることで見出される抽象的な概念だからです。

文章中の多様な描写を手がかりに、生徒たちがカギとなる表現を発見し、読み取れる意味や表現効果を考える、という学習の流れを踏まえると、教材は現代作家による文学的な文章がよい——そう考えて、大修館の『新編 言語文化』（言文706）に掲載されている、川上弘美の小説「水かまきり」を教材とした全5時間の授業を組み立てました。

今回の単元は、ひとつの教材しか用いていない小さな単元です。しかし、身につけた力は、今後さまざまな場面で活用できると考えています。

■学習の流れ

第1時〈全体↓個人↓全体〉

- ・ 作品を通読する

第2時〈個人↓ペア↓個人〉

- ・ 「時」と「場」の設定を読む【ワークシートⅠ】
- ・ 春子の人物像をとらえる【ワークシートⅡ】

※構想メモ・交流メモ・四〇〇字記述

第3時〈全体〉

- ・ 構成と比喩の効果を考える

第4時〈個人〉

- ・ ケン坊の人物像をとらえる【ワークシートⅢ】

※構想メモ・四〇〇字記述

第5時〈全体〉

- ・ 象徴表現を考える
- ・ 学習のまとめ

■評価について

「書くこと」や「話すこと」は、その表現を直接評価することができません。しかし、「読むこと」は、生徒が読みを表現する機会を設けなければ、実態をとらえることができません。本単元では三回分のワークシートを用意し、その記述内容から個別の読みを評価しようと試みました。

教師が日常的に行っている評価は、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の二つに大別できます。本単元の場合は、おもにワークシートⅠ・Ⅱを通じて「指導に生かす評価」を行い、ワークシートⅢと定期考査を通じて、「記録に残す評価」を行う評価計画を立てました。

(1) ワークシートの記述による評価
ワークシートⅠでは、基本的な読みの方と、授業のねらいが共有されたかを確認し、想定とずれがある場合は、授業の進度や課題設定を見直します。ワークシートⅡでは、課題解決の過程を評価します。春子の人物像を四〇〇字で記述するというのは負荷のかかる課題です。机間巡視をして声をかけたり、ワークシートを回収してコメントを返したりすることで、学びに向かう力を引き出せるとよいでしょう。いずれも「指導に生かす評価」です。

一方、「記録に残す評価」は、一定の指導を経て身についた資質・能力を評価す



▲ワークシートⅠ

学習辞典・国語便覧のご案内

新課程・共通テストにも対応！



明鏡国語辞典 第三版

北原保雄〔編〕
B6判・1922ページ・二色刷
定価 3,300円 (税込)

大型版もあります

大きな文字 二色刷り 明鏡国語辞典 第三版

北原保雄〔編〕
B5判・1922ページ・二色刷
定価 6,710円 (税込)

新時代の国語力を強化！



ビジュアルカラー 国語便覧 改訂版

大修館書店編集部〔編〕
B5判・544ページ・オールカラー
定価 990円 (税込)

もっと知りたい！
を支える



トータルサポート 新国語便覧

大修館書店編集部〔編〕
A5判・608ページ・オールカラー
定価 968円 (税込)

るものです。

ワークシートⅢでは、「ケン坊の人物描写を的確に抜き出すことができているか」「抜き出した人物描写から人物像を類推できているか」「人物描写の効果を考えることができているか」に着目して、「思考力・判断力・表現力」を評価します。

〈主体的に取り組む態度〉は、授業中の様子やワークシートⅠ～Ⅲでの変化を見取り、他の評価と同様、規準を設けて評価します。筆者の場合、「記録に残す評価」の評価規準は、同僚と話し合って決めていきます。

(2) ペーパーテストによる評価

定期考査では、漢字や語彙、授業を通じて学んだ読みの確認など知識の習得に関わる設問と、学んだことの活用に関わる設問を出題します。前者は〈知識・技能〉、後者は〈思考力・判断力・表現力〉を評価するものです。

たとえば、「水かまきり」の文章から、ケン坊と春子の関係性を示す表現を二つ抜き出させて、その意味や表現効果を考えさせる問題を出せば、能力の活用を確認できると同時に、作品への理解をより深めることができます。作者の別作品における人物描写から人物像を記述させるような初見文の問題を出せば、能力がほかの場面でも活用できることを知るよい機会となるでしょう。

■おわりに

作品のなかでケン坊は、春子に「食べる」ことを提案します。「たい焼きでも食うか、それともアイスにするか」。春子はアイス、ときっぱり答えて、おぐらアイスを食べることになるのですが、仮に春子がたい焼きを選んだとしても、ふたりは小豆の菓子を食べることになります。

回想の場面で春子の母がケン坊のところのおばさんに勧めたのも、甘いようかん。これは偶然の一致なのか。そもそも一緒に同じものを食べるといふ行為は、ある種の連帯感を生むものだ。『伊勢物語』の「あづま下り」にも、皆で乾飯の上に涙を落とす場面が出てくる。そう考えると作者が食べる描写を入れたことに、おそらく意味がある。生徒はどう考えるだろう——こうして思いを巡らせながら、授業案を練っています。

先日、クラスの生徒が、「テストの点数は良かったけど、納得していない。もう少し勉強する」と言っていて、驚かされたことがあります。今回は教師による評価を取り上げましたが、相互評価や自己評価が、生徒の成長を加速させる場面にもしばしば出会います。

自覚的な読み手を育成するためには、「読みを評価する力をどう身につけさせていくのか」ということについても、考えておく必要があります。



明鏡国語辞典

第三版

北原保雄 [編]

B6判・1922ページ・二色刷
定価 3,300円 (税込)

特色2 新語から学習に役立つ語まで 最新の言葉を約3000語増補

- 時代を反映する語…SDGs / ワークライフバランス / 食品ロス / サブスク / キャッシュレス
- 新語…エモい / イケボ / バズる / ほぼほぼ
- 評論文キーワード…心身二元論 / サステナビリティ / 生物多様性 / ソーシャルメディア
- 教科書の定番教材の語…詩美 (檸檬) / フェータル (城の崎にて) / 妙境 (夢十夜)

特色3 元祖 誤用までわかる国語辞典 言葉の正しい使い方を解説

- 「アニメ好きの血がうづく」「今回だけは多めにしよう」「恩恵にあやかる」「部長から寸志を賜る」「有利に立つ」などつい使ってしまうがちな誤用や、「捜査が佳境を迎えている」「爪痕を残せるよう頑張りたい」など気になる表現をさらに増補して解説。
- 正しい言い方・使い方もわかる。

あやか かる 〔マ〕肖る 〔百五〕幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを念じて幸せな人と同じことをする。「彼の幸運は長生きの相父に似ている。かかわる意の「あやかると」混同するのは誤り。可能あやかれる 〔四〕あやかり

すん 一し 一寸志 〔二名〕①わずかな志。少しの気持ち。②多く自分の気持ちをいう丁寧語として使う。③心ばかりの贈り物。ささやかな謝礼。④自分の贈り物をいう丁寧語。多く謝礼や贈り物のし紙の上に書く。〔五〕注意 もらう側がいつのは不適切。⑥歓迎会の幹事が「部長から×寸志。〇お心遣い」御厚志を賜りました

特色4 「恥ずかしくない大人の言葉遣い」をサポートする「品格」欄

- ふだんづかいの言葉から、改まった場面でも使える言葉を調べられる「品格」欄を新設。
- 品格語は用例とともに示し、どんな文脈で使える言葉なのかがわかる。

すん 一し 一寸 数量が少ないさま。また、程度がわずかであるさま。ちよつと。二酒を一飲む 一頭が一痛い、一もう一辛抱だ 一彼は一前に帰った 一 一も一も、一些しとも。一少々一使い

品格 幾分「兄の方が身長が高い」一些か「一本不安」一縷「一の望み」一掬「一の涙」一一片「一の悔いもない」一希少「一価値」一極小「一化」一僅少「一在庫」一心持ち「一早めに出発してください」一些細「一値段が高い」一寸毫釐「一も変わらぬ」一若干「一値もない」一露「一ほど疑わぬ」一微塵「一も感じさせない」一やや「一異なる考え」一わずか「一に成長している」一一抹は不安や寂しさに「一縷」は希望や望みなど前向きなものに使

特色1 二色刷！ 探しやすく読みやすい紙面



- 項目が探しやすいのももちろん、**注意** **使い方** **書き方**など解説のマークがつけやすく、知りたい情報にすぐにたどり着ける。
- 解説の長い重要語は意味の近いグループごとに分けて「仕切り」を入れ、調べたい意味がどこに書かれているか探しやすい。
- 解説と用例で書体を変え、読みやすさを追求。



特色 5

漢字の使い分けがわかる「書き分け」欄

つく・る ①作る・造る・創る(「他五」) ②「作」造(「原料」材料・素材など)に手を加えたり部品を組み立てたりしてある手づくりしたものを生産した生産品。③「食事曲を作る」米から酒を造る。「船」市川魚を造る。「曲」を「創」を使う場合もある。④「書き分け」使い分けが主産の場合には「作製」より「注文」が主題に立つことが多い。「市が公会堂を」⑤「作」(組職)制度・仕組みなどを新しく「生み出す」。「国内」会社・システム・ソフトウェアなどを「」。

特色 6

読み間違いをしないための「読み分け」欄

おも(主)重(一)形動「主要なさま。中心である。『今月の「な行事」』当地の「な産物」▼おもな(主)れな文語形おも(な)と「おもに」の形で使われる。おもな(主)を連体詞として扱うこともある。●主(主) 読み分け「主(対象は小学生)」「主(主)だ(対象は大人)」「おも」と読む。「主として(参加者は小学生)」「主となる(学生が主となって立てた企画)は「し」と読む。

●同じ漢字で意味が似ている語の読み分けを示す読み分け欄。

特色 7

日本文化の言葉・文学によく出てくる言葉を解説するコラム「ことば比べ」「ことば探究」

「ことば探究」「いぶかる」の使い方 ▼「いぶかる」に近い意味をあらわすが、「いぶかる」は人間の意図・事情・ありかたに対する疑念に重点があり、情報が本当かどうかを単純に疑う意ではない。 ▼「ことば比べ」 「×天動説をいぶかる」が「×天動説をいぶかる」ではないかというニュアンスがある。 「部長が急になれなれしくしてくるのをいぶかる」(「意図が分からず、疑念を持つ」) 「参加者は急な日程変更をいぶかった」(「何かトラブルがあるのではないかと疑問に感じた」)

「ことば比べ」「釜」と「窯」と「電かま」 ▼「釜」は飯を炊くのに使う器具(「お釜」)。「窯」は陶磁器・ガラス・灰などを作ったり、ピザなどを焼いたりするために、素材を中に入れて熱するもの。 ▼「電」は調理器具を上にかけて素材を熱すること。

- コラムを約60本増補。 ●「蕨(いらか)」と「屋根」「火鉢」と「いろり」「釜(かま)」と「窯(かま)」と「竈(かまど)」など、日本文化に関わる言葉を比較して解説する「ことば比べ」。 ●「いぶかる」「すこぶる」「刹那」「ねぎらう」「ゆえ」など、文学作品によく出てくる言葉の使い方を解説する「ことば探究」。

特色 8

話すときにも書くときにも使える巻末付録「伝えるためのことば」

- 敬語 ●接続詞 ●手紙の書き方 ●挨拶のことば ●季節のことば

など

特色 9

意味から使い方で新語・新用法がわかる

●「エモい」「推し」などの新語や、「ゲームに課金する」「話のキモ」など、近年新しく使われるようになった意味には〔新〕のマークを表示。

きも ①内臓。臓腑(五臓六腑)。②肝臓。「鳥の」。③精神。また、精神力。胆力。気力。④(新)重要な点。肝心なところ。「話の」。⑤(新)「力」を「新」重要な点。肝心なところ。「話の」。⑥(新)「力」を「新」重要な点。肝心なところ。「話の」。

特色 10 知りたい情報にたどり着ける便利な索引



- 第二版で好評をいただいた別冊索引を、第三版では本体に組み込んでパワーアップ。 ●索引は「明鏡 利活用索引」「アルファベット索引」「難読語索引」の3種類。「明鏡 利活用索引」では、誤用、気になる言葉の使い方、「品格語」、どこを引いたらいいかわからない語が引ける。

累計 50 万部超！最強の便覧、ついに改訂

特色

2 見やすく、わかりやすい資料が満載！

写真資料 1500 点以上、資料 600 点以上を収録した、
ビジュアルでわかりやすい国語資料集。

巻末付録「世界を知るためのテーマとキーワード」



5 大テーマ
「環境」「社会」
「情報・技術」
「国際」「生命・科学」
の論点を視覚的に解説
します。

デジタル資料
参照項目には
マーク付

音声

動画

資料

特色

3 いつでも、どこでも、まなびにアクセス！

好評の動画リンク集「まなび動画 Navi」がパワーアップ。
オリジナルコンテンツを含む、新感覚の国語資料をそろえました。

体験版は
こちらから

●「デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧」を同時発行！
新課程「現代の国語」「言語文化」教科書と連動して使えます。



ビジュアルカラー

国語便覧 改訂版

大修館書店編集部 [編]
B5 判・544 ページ・オールカラー
定価 990 円 (税込)

新課程対応！

●表紙イラスト・田中寛崇



特色

1 新しい時代に求められる国語力を強化！

実生活で役立つ国語の力を身につけるために、
さまざまな工夫を盛り込みました。

巻頭特集「未来につながる国語の力」

思い切り楽しみながら
想像する力・発信する力・共感する力をはぐくむ
教室が動き出す活動をご提案します。

生徒が主体的に
学ぶ力を支えます。



高校生に身近な事例をもとに、
「話す・聞く」「書く」「読む」
のポイントを丁寧に解説します。



トータルサポート 新国語便覧

大修館書店編集部 [編]
A5判・608ページ・オールカラー
定価 968円 (税込)

言語文化・探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化。

書く力・語彙力

「書く力」と語彙力を養う「言葉の知識編」「表現編」が充実。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、レポート・小論文を書くためのページが充実。

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート！

生徒用
まなび動画
Navi

スマホ・タブレットなどで視聴できる関連動画や音声を紹介。便覧とあわせて使うことで、主体的な学びをナビゲートします。



指導用
準拠CD-ROM

本文テキストや画像、準拠問題データに加え、小論文指導・動画活用・探究型学習・新テスト対応のワークシートを収録。



新課程の授業 「ICT」①

生徒が作る「言語文化」の授業

——古文学習を楽しむために——

なかやぶくみこ
中藪久実子

関西大学高等部

■はじめに

次年度新設の必修科目に「言語文化」がある。学習意欲を持たせ、クリティカルに考える力を育てたい。古典作品などを楽しく学習させるためには、能動的学修（アクティブ・ラーニング、以下AL型授業）が有効である。その学修にICTの活用が力を発揮する。ICT活用の利点には、①すぐ調べられる、②手軽に資料が共有できる、③作業が共有できる、④プレゼンテーションのストライドを瞬時に準備できる、などがある。

■AL型授業の実際

基本は、個人思考 ↓ ペアシェア ↓ グループワーク ↓ 全体でのシェア ↓ 個人リフレクションである（内化↓外化↓内化）。ブレインストーミング、クロストークなどを適宜利用し、考え、意見交換し、発表

（プレゼンテーション）させる。

また、AL型授業で成果を上げるためには、学びの場としてのベース作りが不可欠で、そのためのグラウンド・ルールが必要である。マイナス発言をしない、人を傷つけないなどの約束の元に、「どのような発言をしても大丈夫」という共通認識が生まれる。それがあってこそ活発な議論ができる。ICT活用には一層のルールが必要である。著作権の問題、人権侵害の問題など懸念は多い。教師の指導力が問われる。

1 準備

教師による一斉授業を十分に実施し、地道に知識習得のための学習をさせておく必要がある。
(1) 知識の習得 まずは語彙を量と質の両面から充実させておかねばならない。語法の習熟も欠かせない。生徒

自身の手で古語辞書や古典文法テキストなどを作らせるのもよい。手を動かして「書く」作業が大切である。

(2) 発表の手法を学ぶ。教師による通常授業は、内容とともに発表の手法を学ぶ場でもあり、プレゼンテーションの見本となる。視線の配り方、手の動かし方、スライドの使い方、絵や図の用い方、話し方なども授業を通して学ばせたい。普段の一斉授業を大切にすることがAL型授業の成功につながる。

(3) 資料の共有。授業の板書は復習に欠かせない。授業後すぐに画像に取り込みGoogleドライブで共有する。授業で使用したスライド、様々な資料（現代語訳、品詞分解、構成図など）、書き込むためのプリント冊子、問題練習用の教材なども共有する。ICTを活用することで、瞬時にクラス全員が共有できる。

2 授業

- (1) 教材の提示。教材の扱い方には次の二通りがある。演習問題を扱う場合も同様である。
 - ①ジグソー法で、部分を分担、全体を完成。
 - ②同一作品を数グループで扱い、比較検討。
- (2) 発表内容・方法の提示。すべきことは明快に述べて

ばならない。生徒自身が「発見した」、「自身の手で作上げた」と思えるように助言・指導すべきである。質問を投げかけることによって、生徒の力を引き出したい。質問は「なぜ」と思考が発展する形でかけたい。かける言葉が指示にならないよう、「ハイ」「イエエ」で止まってしまうないように気をつける。例えば、「この図でどのようなことを伝えたいの？」「ここに提示されている話とはどんな関係ですか？」「どんな方法で説明したらみんなの理解につながると思う？」など。全員が作業と発表に円滑に関われるように、各グループのリーダーを上手に活用したい。

- (5) 発表。発表時間を守って発表させる。発表後は必ず全員で拍手し各々の努力の成果を讃える。質疑応答後、教師が間違いや不足を補充、良い点を指摘し褒める。生徒は認められて満足し、次も頑張ろうと思う。発表・スライドは動画で保存し、共有している。
- (6) リフレクション。リフレクションシートは必須である。復習確認になり、教師のコメントは生徒にとって有効な助言となる。相互評価も大切で、点数を付け評価させる。基本的な観点は、①スライドなどのできばえ、②内容探究の深さ、③発見があったか、④説明がわかりやすかったか、の4観点としている。それぞれ5点、合

おかねばならない。何を調べ、何について考え、何を発表するのか、すべきことを生徒がきちんと理解すること、作業は円滑に進む。

- ①教材について、調査し説明するのか、考え討論し意見を述べるのかなどを適切に指示しておく。
 - ②基本の形は、グループ単位での生徒全員による分担発表としている。なお、使用するツール（スライド、板書、模造紙によるポスターなど）、発表時間、質疑応答時間などは指定しておく。
 - ③グループの人数は4〜5人が扱いやすい。クラスの状態に応じて設定する。リーダーは必ず決めておく。少人数から40数名程度まで対応できる。
 - (3) 参考資料の検索。発表に必要な資料は適切なものを一定量用意し提示する。誤った情報に翻弄されないよう、正しい資料を選ぶ指針を示しておく。その上で、インターネットなどを駆使して調査させる。
 - (4) 作業。生徒自身で調べ、解釈し、他者の意見を聞き、自分たちの見解をまとめ、それを他者にわかりやすく伝えることが主眼である。本校生徒はGoogleスライドやKeynoteを使い、資料・作業を共有して作成している。アナログ資料も状況に応じて有効利用する。
- 生徒の作業中、教師は良きファシリテーターにならね

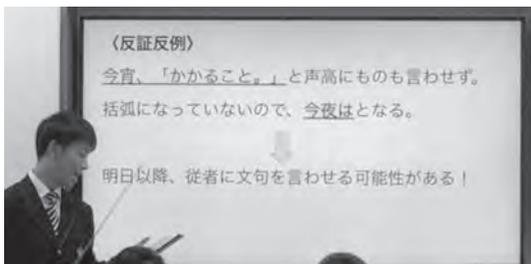
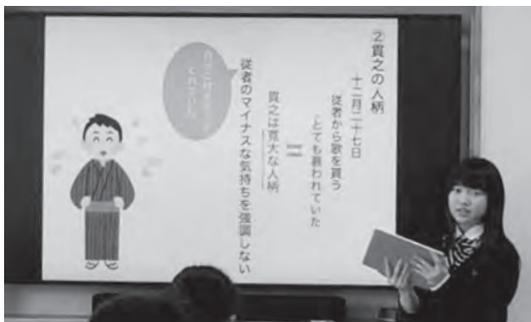
計20点で評価させている。教材によって観点は変える。また、〈自身のリフレクション〉として、①発見したこと、②よかったこと、③難しかったこと、④疑問点、⑤学んだこと、⑥次への取り組みについて、また〈他者への助言・評価〉として、良かった点や感心した点などを記述させる。適宜コメントを付けるが、鋭い質問やうれしい感想があつて学習の様子がよくわかる。点数は集計し、顕彰している。励みとなっているようである。

3 一年次授業の具体例

古文は具体的に内容のイメージがつかめると親しみやすくなる。そこで、通常授業でも文字に加えて絵を使うことが多い。生徒自身の手で、イメージ化を図るためにスライドを作成させると理解が格段に進む。

- (1) 『徒然草』 「をりふしの移り変はるこそ」は、季節ごとに分担するジグソー法で取り組ませた。内容が視覚的にわかる映像を入れたスライドを作成させ説明させた。
 - (2) 『土佐日記』 「門出」を教師の一斉授業で学習後、「帰京」を発展的な教材として扱った。本文を理解するために「帰京」全文の内容をグループごとにもスライド化させ、発表説明させた。同じ箇所を異なる手法・切り口で繰り返し確認することで内容理解が深まった。
- さらに、本文「今宵かかるとと声高にももの言はせ

ず」の「今宵」を会話文に入れるか否かで論議させた。この部分は教科書によって表記に差がある。「今宵」の扱ひ方で、『今夜は「言わせない」(「明日は言うかもしれない」)の解釈と、『今夜こんなに酷い状態になってきた」と言わせない(苦情はもう言わない)』の解釈ができ、貫之の人物像が変化する。「どの形の表記が良いと思うか」という問いを与え、自分たちで意見をまとめさせた。意見には理由と根拠を明示して説明するように指示し、



▲貫之の人物像を考察する生徒

スライドを作って発表させた。討論が白熱し、多角的な視点から発見があり、熱心に授業参加する態度が見られた。古典作品の原本は句読点・カギ括弧なく表記されているので、区切り方で解釈がいろいろできる。また、平仮名一字でもあるなしで意味が変化する。そのように興味を引く点を「問い」にして考える時間を与えると生徒は熱心に取り組む。良き問いは、生徒の探究心を喚起し、思考力を育てる。生徒自身が「何でだろう」と疑問に思うこと、発見して「あっ！面白いな」と思うことが次につながる発展していく。探究学習の契機である。

■おわりに

ICTを活用しAI型授業を成功させるためには、地道に基礎学力をつける教材を準備しておくべきである。教師自身の教材研究も十分でない適切に指示ができない。大切なことは生徒の様子をよく見ること、生徒の声をよく聞くことである。生徒の状態によって教材、手法は臨機応変に変化させなければならない。AI型授業は生徒が本当に生き生きと楽しそうに学習する活動である。準備を怠ることなく、生徒が自ら主体的に育っていく授業を実施したいと考えている。

新課程の授業 「ICT」②

ICTを活用した短歌・俳句の創作

■本校のICT教育について

本校では以前より校内全館Wi-Fiの設置、全ての教室にプロジェクター等の映写設備を常備している。本年度より一年生に一人一台ノートPCを貸与し、年次進行での端末の普及を進めている。なお、全教員をあげてICT教育に力を入れている。

■授業実践

「短歌 十五首」「俳句 十二句」(大修館書店『国語総合 改訂版 現代文編』(国総344))

単元の最後に『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』(以下、デジタル便覧と記す)やインターネットを使用して、短歌や俳句を創作する授業を行った。

創作のメリットは定型の音数や季語、修辞法などを意識して調べたり、使用したりすることで知識をより深め

瓜生恵美子

浦和学院高等学校

られることである。また、自分の言いたいことを適切に表現しようとすることで語彙力や表現力が身に付いたり、思うように表現できないことに気が付くことでもつと表現力を身に付けたいと考えたりする契機ともなる。新課程ではこれまで以上に「書くこと」に力を入れており、学習指導要領の「言語文化」でも「書くこと」の内容として「本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表す」ことを挙げていることから創作の重要性は増してくるだろう。

初めての創作ということもあり、四つの条件を付けた。一つ目は定型にすること、二つ目はテーマを決めて創作すること、三つ目は(俳句の場合)必ず季語を入れること、四つ目は修辞をなるべく使うことだ。それでもなかなか創作に取り組めない生徒もいるので、恋愛や日常生活で見つけた面白いことなど、より具体的なテーマを決めて



から取りかかると良いとアドバイスをしている。実際に取り組んでいる生徒の様子を見てみると、デジタル便覧やインターネットで季語や修辭法など分からないことを調べながら熱心に創作していた。デジタル便覧には巻頭特集に創作のページがあり、俳句や短歌の創作のポイントについても書かれているため、生徒の創作へのハードルも下がっているようだった。また、デジタル便覧には生徒用のワークシートやリフレクションシートも付属しているもので、これらを利用すれば教員側の負担も軽減できるだろう。

今回は授業時数の都合上、生徒の創作したものを教員が講評するだけで終わってしまっただ。今後は©2022のポートフォリオに創作したものを投稿させ、それを教員が匿名でクラスに共有し、その中から好きな作品とその理由を投稿させ、再度共有したいと考えている。そうすることで生徒はクラスメートという身近な他人の短歌や俳句に触れられるだけでなく、自分の創作物を（匿名というリスクの低い状態で）他人に認められる経験ができるからである。創作が難しい場合には、教科書に掲載されている短歌や俳句から好きなものを選んで批評し、それをクラスで共有しても良いだろう。ICTを活用してこうした活動をするメリットは、回収の過程や筆跡から

個人が特定されないため、生徒が安心して自由に表現できることである。

さらに発展として、PowerPointなどを使用し、フォントの種類や文字の大きさを変えたり、イラストを描いたり、画像を貼付したりして、自分の表現したい形を具現化したものをプレゼンテーションする授業もできるだろう。

■ICTを活用する意義

気になることや深く知りたいことがあっても、これまで（とくに授業中）は副教材以外使用できなかった。また、調べ方の分からない生徒は、自分でインターネットや本を使って調べるのはそもそも難しい。その点、デジタル便覧は従来の便覧の内容だけでなく、「まなび動画」や「サイトに関連する動画も見ることができると、様々な情報に瞬時に触れられる。これに限らず、デジタル版の教材やICT機器を使用する最大のメリットは、授業中でも家庭学習中でも気になることがあれば、すぐ知りたいたい情報にアクセスして学習できる点にある。

このようにICTと言語活動を組み合わせることで、学習指導要領の改訂の基本方針にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に近づけることができると考える。

新課程の授業

「ICT」③

ICTで生徒の関心を授業へ！

——夏目漱石「夢十夜」第一夜にどう組み込めるのか——

かまへだいき
構大樹

清泉女学院中学高等学校

■生徒の関心を得ることの難しさ

私たちを取り巻く環境は、加速度的に私たちの関心の収奪に特化したものになっている。私たちはもはや出歩かなくても、生活インフラと結びついたインターネットにアクセスすると、アルゴリズムに基づいてパーソナライズされた広告、記事などの多様な情報を、望む／望まないにかかわらず提供される。私たちの関心は、自分で制御しようにも、勝手にどこかへ導かれていくこうとするのだ。生徒たちも、例外ではない。

このような環境は教員に、生徒の授業に対する関心をいかに構築するかを、これまで以上に要求するに違いない。この問題はとりわけ、近現代の文章を教材とする国語の授業において深刻であるように思われる。そこで扱われる文章のジャンルは多岐にわたる。そして、そうした教材は、その内容をそのまま覚えても——意味がない

とは言わないが——仕方がないところが大きい。むしろ授業では、教材に見出される概念や、教材を分析する手続きの理解のほうに重きが置かれる。生徒からすれば、このような特性は、何をすればよいのかが見えづらく、達成感も得にくい要因となっていくだろう。

だからこそ近現代の文章で授業する教員は、現状を踏まえてより自覚的に、生徒の関心が授業に向き、そしてその状態が持続するような手立てを考える必要に迫られている、と言えるのである。

■ICTでできること

こうした視点に立ち、さて生徒の関心を授業に向けさせる手立てを考えると、授業のなかにICTを組み込んでいくことが、有効な手立てのひとつになることには確かな感触がある。無論いつだって、それさえ使えばと

いうわけではない。得手／不得手を見誤れば、逆に授業の目的があいまいになりかねない。生徒に過度の負担をかけてしまうことだってあるだろう。しかし、その危うさは十分にコントロールできるものである。

それでは、ICTを授業に組み込むことで何ができるようになるのか。私が授業で実践したことをもとに、いくつかの注意点を加えながら紹介しよう。具体的なイメージを抱きやすくするために、大修館書店の『言語文化』（言文苑）に収載の夏目漱石「夢十夜」第一夜の授業での使用を想定したい。このテキストは、教科書でも注目が促されているように、意味が幾重にも重ねられた表現に特徴がある。また「夢」を夢らしく描くための複数の手法も、読みどころである。

なお私の勤務校では、二〇一九年度から当時の中学三年生、高校一年生が、家庭で購入してもらったChromebookを持って学校生活を過ごすようになった（現在は中学二年／高校三年生までが所持）。生徒の端末にはWebフィルタリング、アプリケーション制限が設定されているけれど、許可されている範囲であれば校内、自宅問わずWebブラウジングを含めて使用できる。またLMS（Learning Management System）にはGoogle Classroomを用いている。

ることに寄与し、そうすることで彼らの関心を授業に向けさせるという効果が期待される。

だが、これらの使い方では、もしかしたら長期的に生徒の関心を得ることはできないかもしれない。これらが日常となれば、当然、手軽さ・気軽さも当たり前になるからだ。ICTで生徒の関心を得る授業を形づくるには、さらにその得意とするところを、意識的に組み込んでいかなければならない。

■ICTの得手／不得手を見極める

ならば、ICTの得意とするところは何か。私は教員・生徒を問わず個と個、個と多数をつなぎ、情報のやり取りをさせる共有にあると考えている。このICTによる情報共有は、授業にめざましい活力を与える。授業はそもそも生徒のほうが多数であるのだから、適切に彼らの志向を授業に導き入れれば、流動性が生まれ、ゆえに刺激のほうにひらかれた場が成立する。ICTはそうした場の成立を手助けしてくれるのである。

たとえば生徒に「夢十夜」第一夜の導入で、「夢」を描いている創作物語のタイトルを、LMSに入力させるとする。そして、その入力内容が公開されるように設定すると、教室のなかでどのようなタイトルが挙げられた

たとえばICTによって、初読の感想や教員の発問に対する回答を、LMSやインターネット上で作成したアンケート（Googleフォームなど）を通じてアウトプットさせることができる。教員は任意のタイミングで生徒を、一度に何人でも授業のほうへ目を向けさせることができるというわけである。これは生徒にとっても、挙手や指名による方法と比べ、はるかに気軽に発言できるようで、授業に参加したという実感も得やすいと聞く。教員が記名／無記名を使い分けることで、より活発なアウトプットを促せる方法である。

また、この使い方の延長線上に、レポートやプレゼンテーションなど、ICTを用いた授業まとめの実施がある。これも手書きの労力からの解放という観点から、生徒に受け入れられやすい。加えて、そういった課題を実施する場合、単元の開始時に、LMSを通じて何を最終的に求めるのかを事前に提示し、手軽に確認できる状態をつくることができる。授業においてどこに向かっているかばかりはつきりすれば、生徒も授業に向き合いやすくなるし、前もって課題の準備ができるという点で、授業への関心も持続していく可能性が高い。

このように、ICTを授業に組み込むことは、手軽さ・気軽さのもとに生徒の授業参加へのハードルを押し下げたのが、各自の端末で確認できるようになる。生徒は「夢」を描いている創作物語の、思いも寄らないほどの多様さに気づくだろう。このようなICTで他者の思考が可視化される体験は、生徒一人一人を大いに刺激するようだ。授業の感想でも、他の人がどのように考えているのかわかってよかった、というものが目立つ。

他にもGoogle JamboardやGoogle スライドといった、複数人がほぼ同時にホワイトボードへの書き込みに似た作業ができるWebサービスを用いると、グループ単位でそれぞれが自分の考えをアウトプットし、確認し合えるようになる。生徒に「真っ黒なひとみの奥に、自分の姿が鮮やかに浮かんでいる」や「百年はもう来ていたんだな。」とこの時初めて気がついた」といった箇所を描こうとする情景についての考察をWeb上でアウトプットするグループ学習をさせ、それを使って、さらに考察した箇所がテキストにおける「夢」という前提をどう支えているのかを分析させる活動につながると、教員に依存しすぎない授業展開になっていくだろう。

ICTは生徒ありきの授業の成立を、情報共有という得意とするところによって支える。教員は彼らがアウトプットしたこれまでにないほど多くの情報を前に、ファシリテーターとしてそれらを整理し、授業目標の達成の

どうなる GIGAスクール構想

■ GIGA スクール構想の概要

【ハード】

- ・校内ネットワークを整備
- ・学習者用端末1人1台（小中学校）
- ※高等学校は3人に1台分。低所得世帯等には助成し、1人1台整備を働きかけている

【人材】

- ・ICT活用教育アドバイザー、GIGAスクールサポーター、ICT支援員の配置

【ソフト】

- ・1人1台端末環境の利活用（GIGA StuDx推進チームによる支援）
- ・学習者用デジタル教科書、デジタル教材（教科書改訂にあわせて新たな導入方策を実施）
- ・教育データの標準化
- ・オンライン学習システム(CBT)の推進

■ GIGAスクール構想とは
2019年12月に文部科学省から発表されたプロジェクト。GIGAとはGlobal and Innovation gateway for allの略で、全国の小中学校で児童・生徒1人に1台、学習用端末を配備し、校内高速大容量ネットワークを整えるというもの。ICTを用いた学習環境を整備することで、従来の画一的な教育ではなく子供たちそれぞれの創造性を育む教育を提供できるようにするという構想である。

この構想は本来、2019年度から5年をかけて行われる予定だったが、新型コロナウイルス感染症の流行にもなってオン

ライン授業が一気に広がり、教育のICT化が急務とされて、前倒しで進行した。1人1台端末の整備の費用を中心に予算が組まれ（端末1台あたり4万5千円の補助金）、小中学校に関しては、96.5%の自治体で、1人1台の端末が納品完了見込みとなっている。

■ GIGAスクール構想関連の支援サービス「子供の学び応援サイト」（学習支援コンテンツポータルサイト）
https://www.next.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm

ように導いていく役割を果たせばよい。ときにはキレターのように、それらの情報をつなぎ合わせたり意味づけを行ったりしながら、生徒の志向に沿ったテーマを設定し、授業を展開するのもよい。

ただし注意すべきこともいくつかある。ICTを授業に組み込むと物理的な——もしくは時空間的な制約から皮肉にも生じていた、生徒の活動量のバランスが崩れる恐れがある。積極的な利用が生徒の活動過多を生じさせ、ゆえに学習者が疲労感や負担感を覚えることや、授業に散漫な印象を抱かれる危うさもあることを、教員は念頭に置かねばならない。

「夢十夜」第一夜の授業のゴールを《テキストにおいて、夢を成り立たせている手法の特徴を、他の創作物語との比較から読み取る》と設定しよう。授業のまとめとして、生徒にレポートを書かせるのか、プレゼンテーションさせるのか、それとも別の活動によってさせるのか。どれを選択するのかのポイントは、一單元あたりでどれだけの活動を彼らが行ったのかも考慮すべきである。ICTを使うことで、教員の側に知らず知らずのうち、生徒に書かせること、制作させることへの気軽さが生じることはあり得る。これは自分の反省でもある。たとえばレポートやプレゼンテーションといった、これ

までも馴染みのあるまとめの活動でなくとも、たとえばグループディスカッションをさせ、まとめとしてその議事録の提出を課してもよいだろう。

ICTを授業に組み込むと、授業の幅は格段に広がる。だからこそ、授業のゴールを軸に、それらをフラットな立場で配置していき、そして生徒の関心を持続させていくことが肝心なのである。



▲Google Classroomを用いたLMS（学習管理システム）の例。課題の進捗や生徒の回答例などをクラス全体で共有することができる。

「GIGAスクールサポーター配置支援事業」
ICT環境整備の設計や使用マニュアル
(ルール)の作成などを行うICT技術者の
学校への配置経費支援を行っている。

■導入後の課題

1人1台端末は導入が始まったばかり
で、学校現場では運用にあたり、さまざま
な問題点も浮上している。文科省は参考と
して次のような資料を公表している。
「パソコン活用のチェックリスト」

「GIGAスクール構想の下で整備され
た1人1台端末の積極的な活用等につい
て」では、本格運用にあたって保護者と情
報共有すべき内容や、設置者向けチェッ
クリストなどがまとめられている。

https://www.mext.go.jp/content/20210312_mxt_jgaid01-000011649_002.pdf

「ICTを活用した学習指導のチェッ
クリストや実践事例」

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏
まえ、やむを得ず学校に登校できない児童
生徒に対してICTを活用した学習指導を
行うためのより実践的な資料がまとめられ

ている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_99901.htm

■高等学校に関する状況

高等学校においても、小中学校同様にI
CT機器の導入が求められているが、高等
学校にはICT機器購入費用に関する国の
予算措置はない(低所得家庭への補助は行
われる予定)。このため、特に公立高校での
整備が順調に進むかどうか懸念されている。

高校で情報端末の1人1台環境を構築す
るための手法として、①保護者が調達し、
それを持ち込むBYOD (Bring Your
Own Device)、②学校が推奨機種を決め幹
旋購入するBYAD (Bring Your Assigned
Device)がある。

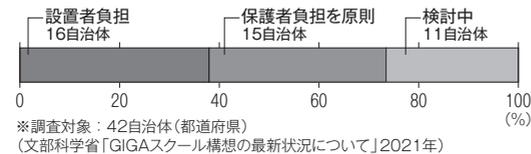
個人調達 (BYOD) の場合、クラスで
使用している端末がまちまちで、指導がし
にくかったりトラブルが起こったときの対
処が難しかったりなどの問題がある。推奨
機種の幹旋購入の場合はそれらの問題は解
消されるが、保護者負担の場合購入費用が
過大な負担となる可能性がある。

文科省の調査によると、1人1台整備を
目標とする都道府県自治体(42)のうち、
「設置者負担で整備する」と答えたのが16自
治体、「原則保護者負担」と答えたのが15自
治体だった。

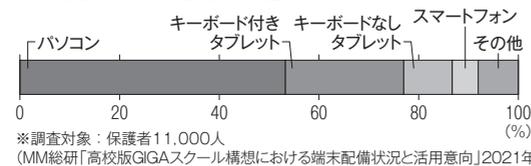
■参考

GIGAスクール構想について(文科省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_0001111.htm

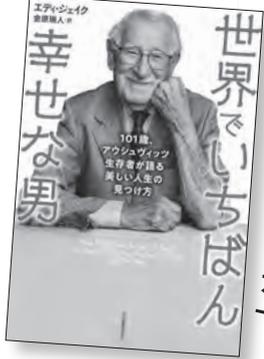
●整備費用負担主体



●保護者の期待する端末の種類



BOOK REVIEW



いま、高校生に
読んでほしい本

「人の営みのなかで、もつともすば
らしいのは愛されることだ」(p.92)

著者のエディ・ジェイクはドイツ生ま
れのユダヤ人。ナチス政権下の迫害によ
って故郷も家族も人間の尊厳も青春時代
のすべてを奪われた戦争被害者だ。二
度にわたる強制収容所からの生還とい
う信じがたい悪夢をくり抜けてきた。

暗黒の体験が綴られた本書は決して絶
望の書ではない。深い闇の中から眩しい
光を掬いとる。生きながらえたエディの
魂はどこまでも気高く美しいのだ。読み
進めれば噛みしめるべき名言の数々が溢
れていることに気がつくはずだ。そのい

暗黒の闇から掬い出される夢と希望があまりにも眩しい…
身を切るような感動が突き刺さる「いのち」のメッセージ!

エディ・ジェイク 『世界でいちばん幸せな男』(河出書房新社、二〇二〇年)

うちだ たけし
内田 剛

ブックジャーナリスト。約二〇年の書店員勤務を経て、
二〇二〇年よりフリーに。NPO本屋大賞実行委員兼理事。

くつかをご紹介しておこう。

「命あるところに、希望はある。そ

して希望があるところに命がある」

「人生は、美しいものにしようにと思

えば美しいものになる」

「人生で大切なことがひとつある。幸

福は分け与えるもの。それだけだ」

すべての言葉に説得力があり、語り口

も雄弁である。そしてどんな苦難があろ

うとも人間には立ち向かう強さがあると

教えてくれる。心に突き刺さる普遍的な

「学び」に満ちているのだ。

幸福は与えられるものではない。自分

自身でつかみとるものだ。奇跡もまた起

きるものではなく、自分の力で起こすも

のである。一度きりの人生、常に自分を
主語で語る意識が重要なのだ。

人が生き延びるために必要なのは友や
家族のようなかけがえのない存在と、助
け合う心、工夫を凝らす知恵、そして明
日を信じる希望である。

ここに描かれているのは過去の壮絶な
悲劇だけではない。人格を歪める狂気が
芽生える瞬間を目の当たりにし、尊い犠
牲を脳裏に刻みつける。真の平和を願う
エディの想いは世界へ、そして未来へと
確かに繋がっている。

これは人間をつくる一冊だ。著者の唯
一無二の経験は骨格となり、書かれた哲
学が血肉となる。ライフラインとしての
読書を体感できる作品である。読者にと
って生きる上での糧となり、生涯に寄り
添う友であり、揺らぐことのない座右の
書となるだろう。

詩の教室へようこそ

和合亮一

福島県立本宮高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、Twitterで「詩の礫」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集『QQ』で萩原明太郎賞受賞。校歌合唱曲作詞多数。

第三回 大きな何かと出会うために

＊ 人生のレシピとしての詩

詩作を始めてから、早くも三〇数年が経っています。こんなに長く続けることにならなると、意外な気持ちがありました。私は何をやっても飽きっぽくて、次から次へと目移りしてしまう性格なのです。これを持ってきたと思えるものを一つでも持つことが出来たということについては、知命と呼ばれる五〇歳を過ぎて振り返ってみて、自分でも正直なところ、驚いています。どうして続けてこれたのでしょうか。ズバリ、好きだからです。詩を書くことも読むことも、自分の人生のレシピにとっては、もはや必要不可欠なことだと言えるでしょう。詩と向き合うことが当たり前で日常ですが、それを生徒さんにも先生方にもおス

スメしたいというのが変わらなす。ありま

これまででも詩作について教えてもらえないかというお話をいただいてまいりました。まあ何事も、習うより慣れろと申しませうか。まずはたくさん詩を読み作品世界に触れることから始めると言えます。しかしそれだけをお伝えするのはなかなか、詩作へと誘いこむのは難しいと日頃から教師の現場で感じてまいりました。分かりやすい方法はないものかと思いましたが、模索を重ねるようになり、現在に至ります。長い歳月においての取り組みや実践の際に用いたワークシートなどを、『詩の寺子屋』（岩波ジュニア文庫）という一冊にまとめていますので詳しくはそれを参考にしていただけますと幸いです。ここで

＊ 詩作のミニレッスン

少しだけ簡単なものをご紹介させていただきます。

その1 「思い浮かぶ言葉を書いてみる」。まずは五分間でも十分間でも、心に浮かんだことをなんでも良いとして書いてみる。そこから始めてみましょう。筆が動くままに何かを白紙に連ねてみる。出来る、出来ない…の度合いは様々だと思いますが、机を並べている隣の誰かがそれを始めると、不思議とそうしようとする気持ちが湧いてくるのです。あたかも熱心に本を読み耽っている人がいると、自分も静かに読んでみようという気持ちになるように。

まずはそれを思うがまま記してみても、時間が来たら、筆を置いてみる。書いたもの

をあらためて眺めてみる。言わば自由に記した言葉の落書きのようなものを。

普段なら捨て去ってしまうでしょう。しかしそれを自分の心の鏡のようなもののだとして受け止めてみる。自分なりに新鮮さや面白さを感じた言葉やフレーズに線を引いてみる。少しでも何かの発見があれば、試みとして成功だと思えます。ほんの少しでもたくさんでも、それを見直してマークをしてみることで、自分の書いた何かを違う眼差しで見つめる⇨客体化することが出来ます。実際にこれを毎日続けていくと、白紙に描く落書きの趣味がみるみるうちに変わっていきます。このようなイメージやメモ書きが、実は詩を書く第一歩になるのだという説明を添えます。

その2 「言葉を持ち寄ってみる」。

思い浮かぶ言葉をグループの中で持ち寄ってみましょう。好きなものでも良いし、教師の側でテーマを決めてみるのも良いと思います（例えば「秋」を感じさせるものとか、色彩が感じられるものなど）。メンバーの顔ぶれによってかなりの数になる時も

あれば、わずかな場合もあるでしょう。とりあえずその中から三つの言葉をあれこれ話し合わせて選ばせてみましょう。

単語カードのようなものを渡して並べて選んでみるのも良い方法です。ちなみに実際に小学校などのワークショップでは、夏なら魚、秋なら木の葉の形に、子どもたちに色画用紙などを渡して、切り抜きをしてもらいます。一つひとつ手作りのカードに言葉を記して、机の上に並べてもらおうと、にぎやかな感じになります。それをグループで眺め渡しながら選んでみることによって、集団の別なまなざしが生まれている瞬間があるということ子どもたちの楽しそうな姿から感じてきました。

その3 「組み合わせる」。

取り出した言葉を無理やりにでも組み合わせさせて、フレーズを作り出してみようとい促します。自分の言葉あるいはそうでないものを目の前にして、そのつながりを考えてみる。私がこのような場合に参考として挙げるのが多いのは俳句の作品です。例えば「うつくし」「天の川」「障子」の

三つの語を用いて考えてみましょう。これをクイズのようにして、無理やりにでもフレーズを作ってみようと呼びかけます。

例えば「昨晩は美しい天の川が出ていたのに、窓ガラスの前の障子が開かなくて見ることができなかった」など各グループから名（？）回答が飛び出します。このことへの正解というわけではないのですが、小林一茶の句「うつくしや障子の穴の天の川」の一例を伝えます。三つの言葉が組み合わせ、名句や名詩は生まれているのだ、とも。アイデアとはそもそも、何かと何かを組み合わせることから始まるのだという説明を添えます。良し悪しではありません。ここで組み合わせ「言葉の塊」のようなものを作ることに面白さを知ってほしいと願っています。

その4 「塊を大きくしてみる」。

例えば三つの言葉の組み合わせを他にもし続けていき、出来上がっていく様々なフレーズを、三行、五行、十行…と全員で組み合わせることで、その塊はどんどん大きくなります。必ずしも自分の言葉でな

くても出来上がるものなのだという経験をして欲しいと思います。こだわりを捨てて良い言葉をいつも捕まえようとする姿勢こそが大事なのだと伝えたいです。それをあらためて皆で清書してみると、少なくとも詩に似ている何かが、出来上がっていることに気付かされます。

その5「朗読してみる」。

出来上がったものをグループごとに朗読してもらいます。代表者一名でも、あるいは全員で工夫して読んでみるのも良いと思います。音声にしてみることで、さらにひらめくこともありますし、何よりもそのようにして声で形にしてみることで、そこに文字の世界ばかりではない命が吹き込まれていくような感覚を少なからず実感できると思います。

「言葉の塊」を通して、生きた言葉の時間を教室で共有することが出来れば、普段とは違う仲間とのコミュニケーションの深まりが見分けることが分かります。そして体験したことを基にして、今度は一人でも実

丸裸にされて
二人で一緒に海に着く

海のイメージの深まりと向き合った不思議な印象を受ける作品ですが、時間と歳月の波の中で、生きていくこととは何かを考えさせられました。福島で震災を経験した私としては、津波の被害を受けた二〇一一年から、今年で十年が経ったことを思い浮かべました。

✿自分の存在を込めて書く

紙幅が尽きてまいりました。最後に岩崎航の新詩集「震えたのは」(ナナロク社)から、一つの詩句を紹介したいと思います。作者は幼い頃から筋ジストロフィーという難病を患ってこられました。やがて彼は詩作と出会います。一冊のなかのそれぞれのフレーズには病床で握っているペンの力が、しっかりと手渡されている感触があります。岩崎さんにとっての二冊目の詩集になります。

重度の障害と向き合う日々。装着しなくてはならない器具や誰かの介助なしでは生

践して書いてみようとする気持ち芽生えるきっかけになると指導者として感じてきました。

✿投稿作品より

投稿作品をいくつか、ご紹介させていただきます。まず一作目。高校三年生(匿名東京都)の作品です。

どうして星は夜しかみえないの

それはね

星は夜になると忙しいから

楽しい夢をみんなに届けて

朝の澄んだ空気の準備をするの

あちこち忙しく動き回るから

キラキラ光って見えるのよ

美しい星空をテーマに、幼い頃に家族と交わした会話を、ふと思い出させてくれるかのような懐かしさと、宇宙の広がりを感じられるような素敵な作品でした。二作目

(ね、ね?)

洗い流され

はるかほるかの水の底

いつまでも

子どもあつかいされる

厭わしさ

やりきれなさ

かなしき怒りと

さられない現実が言葉に記されています。

短くとも迫力のある言葉の数々です。この二行に特に励まされます。

病と向き合い
堂々と生きる

生きるとは、大きな何かと向き合い続けること。岩崎さんは難病と、そして詩を書くという時間に、堂々と対峙しています。自分の存在を込めて書くことのおかげがえのなさを、生徒たちと見つけることが出来たらと強く祈りながら、私も教壇に立っています。

十七歳の時に絶望感が募り、自殺までも考えたこともあったそうです。しかし第一詩集の刊行後に、これまでの心に変化が訪れたと続けて語っています。自分の意志で暮らしを作っていきたいと思うようになり「ました」と。ありのままの自分を詩に書くことで鍵のようなものが見つかったのではないのでしょうか。その姿が随所に見えてくる詩集です。

経管栄養や呼吸器を

使うのは

ひとつの喪失で

それ以上の生きる力を取り戻す

活の手段なのだ

詩の作品大募集!

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたします。応募作品の中から和合先生に選んでいただいたものを誌面にてご紹介していきます。奮って応募ください! (募集要項は64頁)

は浦野恵多さん(埼玉県立大宮中央高等学校三年)の作品「流体」です。

流体

拾ってきた食卓には

暖かな料理が並べられ

わたしと友人は

手をつけない

(カチカチ)

影の韻律は

響くばかりで

身体をわたしたちから遠ざけながら

(ね)

小さな銀を足場に渡っていく

形容詞は「やばい」?

紫式部にファンレターを書こう⑤

おおくら ひろし
大倉浩
筑波大学教授

課題 次の文章を、紫式部がわかるように書き換えよう。

あなたの書いた物語の「きりつぽ」を読みました。死んでしまう桐壺更衣がとてもかわいそうでした。

紫式部に手紙を書くという課題は、動詞活用のお話にだいぶ寄り道してしまいました。まず、ここまでのミッションを完成させましょう。

おもとのものしつる物語「きりつぽ」を読みはべりき。死ぬる桐壺更衣ぞ、いとあはれにはべりける。

係り結び「ぞ：ける」を入れて強調してみました。今回は「かわいそう」↓「あはれなり」という、形容詞・形容動詞の変化について述べます。

語との意味の違いやズレが大きいためです。でも、改めて考えてみると、どうして形容詞・形容動詞には、意味が変化している語が多いのでしょうか？

そもそも形容詞は、物事の様子・状態を表す語で、「嬉しい・悲しい」など、人間の気持ち・心の状態（「情意」と呼ぶ）を表す語群と、「大きい・早い」など、事物の性質や状態（「属性」と呼ぶ）を表す語群に大きく分かれます。形容動詞も活用パターンが異なるだけで、意味は同じく情意・属性に分かれます。

属性は、事物を見たり触ったりして感覚を共有できますが、情意は話者の心の中ですから、見たり触ったりできません。ことは（情意の形容詞）と表情、状況などで間接的に捉えるしかありません。千年も昔の日本人の心ですから、情意を表す形容詞という手がかりがあっても、我々が共有するのはなかなか難しいのです。書いた本人は、この形容詞が今の自分の気持ちにピッタリの意味だと思って使っても、読者が少し異なる理解をして使つてゆくと、千年も時が経過していくうちに、最初の意味から拡張したり、真逆の意味に変わつたりしてしまうのです。

そのうえ形容詞・形容動詞は、寿命が長くて、意味

古語の動詞は活用が複雑でしたが、それに比べると形容詞はク活用とシク活用、形容動詞もナリ活用とタリ活用、ともに二種類ずつ、現代語ではそれぞれ一つの活用にまとまっていて単純です。それよりも、個々の語の意味が要注意です。課題の「あはれなり」の意味も、古語辞典では、

- ①しみじみと情趣を感じさせる。
- ②かわい。いとしい。
- ③ありがたい。尊い。
- ④立派だ。見事だ。
- ⑤悲しい。さびしい。

のように幅広くたくさんあって、文脈や時代をよく確かめないと、うまく現代語訳できません。

他にも「をかし」「はづかし」「きよげなり」など、現代語訳がむずかしい形容詞・形容動詞がたくさんあります。教科書や参考書の重要古語のリストを見ると、ほぼ四分の一がこうした形容詞・形容動詞です。現代

が変化しても現代まで生き残って使われるので、読者は混同しやすくなります。現代語の形容詞でも、もとは「危ない」の意味の俗語だった「やばい」が、程度の激しさ、想定外の高評価（「やばい！ おいしい！」のように）を表す意味に変化してきています。

さらに、実はこの情意と属性という大きな意味の違いは、古語形容詞のシク活用とク活用との違いに対応しているようなのです。現代語で、終止形が「〜しい」となるシク活用形容詞は、前述の「嬉し：」をはじめ「楽し・恥づかし・優し・をかし」など、情意の形容詞です。同様に「大し：」以外にも「暗し・黒し・遅し・良し」などはク活用で属性形容詞です。この区別は、平安時代でも例外や両面の意味を持つ形容詞もあり、整然と分かれているわけではありませんが、形容詞の原義を知る有力な手がかりになっています。

「ク活とシク活、ほとんど同じ活用をするなあ」と思いながら二つの形容詞活用を覚えた皆さんも、この違いを念頭に古語の形容詞の現代語訳を考えてみてください。「うつくし」が「かわいい」から「美的だ、きれいだ」に大きく意味が変わっているのも、シク活用の形容詞であることが関係しているのです。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

あふれる「人流」、活用する「人財」

関根 健一

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」（三省堂）、「ちびまる子ちゃんの敬語教室」（集英社）など。「明鏡国語辞典 第三版」編集・執筆協力者。

「いかに人流を抑えるか」「人流データを解析する」——新型コロナウイルス感染症防止に関して「人流」という言葉をよく見聞きするようになりました。最初「ジンリユウ」と耳にして、一瞬何のことか理解できず、「人流」の表記を見て意味は推測できたものの、違和感は残りました。

政治家が会見などで使うのを引用する形で、新聞や放送でも頻繁に使われるようになっていきました。行政や観光の分野ではこれまでも用いられていたようです。物の流れが「物流」なら、人の流れは「人流」となるでしょう。しかし、国民に広く注意を促すべき事柄について、行政用語・専門用語をそのまま発信するのでは、伝えるべきものが伝わらないおそれがあります。

「い何のことだろう？」と立ち止まらせ、そこに注意を向けさせる効果があるからです。平時であれば増えることが発展や隆盛につながる「人流」ですが、パンデミックの記憶を呼び起こす言葉として残っていくのかもしれない。また、「人流」という言い方に、「人」を「物」と同列に扱う感じがする、と反発を覚える人もいます。そうした感覚にもうなずけるところがあります。

「人材」という言葉についても、人間を「材料」や「材木」のように扱っているのではという見方があるようです。しかしこれは誤解で、「適材適所」「逸材」と使われるように、「材」は「資質・才能」の意です。役に立つ人を指すのが「人材」で、「木材」に見立てているわけではありません。

それでも気になるのでしょうか、従業員募集や会社経営の理念を述べた文章で、「材」の字を「財」に換えた「人財」の表記を用いているのをしばしば目にします。かけがえのない「財産」であると強調したいのでしょう。しかし、人間的・精神的

「人出」と言った方が分かりやすい場合もあるはずですが。ただ、特定の場所に集まっている人の数を指す「人出」に対し、「人流」ほどのくらいの人移動していくかに注目した言葉なので、単に置き換えると正確さを欠くこともあるかもしれません。ニュースでは、「人の流れ」「人の動き」と言い換える工夫もしています。とはいえ、「抑制」「解析」「動向」「解析」などに続けるには、漢語の「人流」がびったりはまります。便利に使われているゆえんでしょう。

安易に使ってほしくないという思いは残りますが、一方で、異常な事態であることを喚起させるには、むしろなじみがなく、抵抗を感じるくらいの表現の方がふさわしいともいえます。「いった

価値を「財産」と表す使い方もあるとはいえ、金銭や経済的価値をまず連想する場合は多いのではないのでしょうか。そうした直接的な利益を生み出さなければ「人財」ではない、と誤解されては本末転倒です。また、「材」と「財」は本来は通じる意があり、あえて入れ替える必要はないともいえます。思い込みや早合点で、長年使われてきた表記をいじることは慎重でありたいものです。

ところで、少ない人材をやり繰りするというとき、「人繰りが難しい」「人繰りがつかない」といった表現をしているのを見かけます。金のやり繰りを「金繰り」と略するならば、人のやり繰りは「人繰り」といえそうですが、こちらは辞書には見当たりません。

調べてみると、世界記憶遺産に登録された炭鉱画家の山本作兵衛が酔うと歌うというゴットン節に「嫌な人繰り邪険の勘場」とありました。人をも人とも思わない封建的な人事管理に由来する用語なのかもしれませんが、これこそ人を物扱いたし言い方ではないのでしょうか。

ことばでつながる やまとうた

第3回



ピーター・J・マクミラン
翻訳家、日本文学研究者、詩人。東京大学非常勤講師。著書に『英語で読む百人一首』（文春文庫）など。2019年、世界初の英語版百人一首『WHACK A WAKA百人イングリッシュ』を制作、発売。



奥村 準子
（おくむら・じゅんこ）
筑波大学附属高等学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。競技かるたの指導者、公認審判員、A級公認読手、また自らも競技者（六段）として活躍中。

英語で読む

When I look east——
the light of daybreak
spilling out over the plain.
When I look back——
the moon crossing to the west.

『英語で味わう万葉集』ピーター・J・マクミラン（文春新書）より

東の野にかぎろひの立つ見えて
かへり見すれば月かたぶきぬ

柿本人麻呂（万葉集・巻一・48）

◆作者と歌

作者の柿本人麻呂は、壬申の乱（六七二年）から奈良遷都（七一〇年）にかけて、いわゆる万葉集の第二期に活躍した人物ですが、出自や経歴などは謎に包まれています。当時の宮廷社会では、天皇の行幸を賛美する歌や皇族の死を悼む挽歌など、宮廷の儀礼空間にふさわしい歌を詠む歌人が求められました。人麻呂は身分は高くなかったようですが、宮廷歌人として多くの優れた歌を詠みました。題詞によれば、当時十歳の軽皇子が、亡き父草壁皇子ゆかりの地・安騎野（現在の奈良県宇陀市）へ遊猟へ出かけた折に、作者が供奉（随行）して歌が作られました。長歌一首、短歌四首で構成され、草壁皇子の死を悼みな

がら旅先の夜を過ごし、夜明けとともに狩りが始まるところまでが歌われています。ところで『万葉集』に書かれた歌は全て「万葉仮名」と呼ばれる漢字で表記されています。漢字なのに「仮名」と呼ばれるのは、漢字本来の意味に関係なく、漢字のもつ音や訓を利用して表記しているからです。この歌は次のように表記されます。

東野炎立所見而反見為者月西渡
三十一音の和歌が、たった十四の漢字で作られたことに驚きます。

現代語訳 東の野に曙光がさし出るのが見えて、振り返ってみると月は西に傾き入ろうとしている。

英訳のポイント



最初、東西の対比が重要な歌だと思いき、westという言葉を入れて訳しました。しかしよくみてみると、和歌の中には「西」という言葉がどこにもありません。悩んでいると、『万葉集』の原文では、第五句が「月西渡」と万葉仮名で表記されていると知りました。この第五句をどう訓むべきか、古来様々な訓が試みられているということですが、学問的な当否はさておき、私は the moon crossing to the west と訳しました。それもこれも、原文の「月西渡」との出会いを大切にできなかったからです。

くらべて読む

マクミラン先生も指摘のように、万葉仮名で表記されたこの歌がどのようなメッセージをもつものだったか、歌が詠まれて二〇〇年ほど過ぎた平安時代中期には、すでに正確な読み方が分からなくなってしまうたようです。この歌は、古くは「あづま野のけぶりの立てる所見てかへり見すれば月傾きぬ」と訓まれていました。ところが、江戸時代の国学者・賀茂真淵が現在流布している訓みを考えたのです。画期的だったのは、「あづま野のけぶり」を、「東(ひむがし)の野にかぎろひ」としたことです。

「あづま野」は地名と考えられていたのですが、賀茂真淵はこれを「東(ひむがし)」と捉えました。「ひむがし」は「日向かし」、つまり太陽に向かう方角、という意味です。さらに原文で「炎」と表記された部分を「かぎろひ」と訓みました。「かぎろひ」と聞くと「陽炎」を想像しますが、ここでは明け方にさしはじめる曙光と解釈します。夜明けの東の空に曙光が見えはじめる、振り返ると西の空には月が

傾いて山に沈もうとする。東の太陽と西の月、夜明けの瞬間を描くダイナミックな歌に感じられます。安騎野遊獵を詠んだ一連の長歌・短歌は草壁皇子の挽歌といえる内容ですが、この歌だけは明るい夜明けの瞬間を詠んでおり、五年後に十五歳の若さで文武天皇として即位する軽皇子の未来を予祝しているようにさえ感じられます。

『万葉集』にはこのような天空を描いた歌が他にもあります。特に人気が高いのは次の歌でしょう。

天を詠む

天の海に雲の波立ち月の舟星の林に漕ぎ隠る見ゆ

(作者不明 巻七・1068)

巻七の巻頭に置かれたこの歌は、天空を「海」に見立てています。空に浮かぶ雲は「波」に見え、その波間(雲の間)を渡っていく月が「舟」に喩えられています。舟に見える月は三日月だったのかなと想像します。その「月の舟」は「星の林」に隠れていきます。月に負けないほどの星の輝きと、夜空に繰り広げられる天体の運行が、こんなにロマンチックに描かれている『万葉集』は、本当に魅力的な明神」とするという宣言が朝廷から下されました。歌の聖はとうとう歌の神様になったのです。

歌集です。マクミラン先生のお気に入りもこの歌だそうです。(朝日新聞で連載されているコラムのタイトルも「星の林」です。)

ことばと文化

▼歌の聖

柿本人麻呂は、『古今和歌集』「仮名序」において「歌の聖」と称され、平安時代の歌人たちから尊崇される存在となりました。平安末期には肖像を飾って和歌の上達を願う習わしとして「人麻呂影供」がおこなわれるようになり、ます。「影供」とは、崇拜する神仏や人物の像をかかげて、供物をそなえ礼拝する儀式のことです。人麻呂の崇拜が儀式とともに広がり、鎌倉時代には人麻呂を含めた三十六歌仙の歌仙絵が誕生します。歌仙絵は、江戸時代には「光琳かるた」のように、上の句に歌の作者として描かれるようになりまし。

さらに、享保八(一七二三)年には、人麻呂の千年忌にあたる年とされ、柿本(旧人丸)神社(兵庫県明石市)と高津柿本神社(島根県益田市)に対して、祭神を「柿本大

「」にも注目!



新しい元号「令和」が『万葉集』巻五「梅花の歌」と題された三十二首の序文から採られたことは大きな話題となりました。

当時の大宰府の長官であった大伴旅人が梅の花見を楽しんで書いた、「初春令月、気淑風和。梅披鏡前之粉、きき」(初春令月にして、気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披で白粉をつけた美人のように白く咲き、…)という部分から「令」と「和」の文字が選ばれました。着任早々に妻を失い、都から遠く離れ苦労した旅人が、美しく咲いた梅の花を楽しみ春を迎えた喜びを言祝ぐ歌を残しました。

グローバル化が進む二十一世紀に、日本の古典文学から新しい元号が誕生したことには大きな意味があると思います。元号に込められたためたく穏やかな時代の到来の願いを受け取めて、私たちは今を生きているのです。

青山あり!

中国祠墓紀行

[WEB国語教室]連動

第五回

柳侯祠・柳宗元衣冠墓

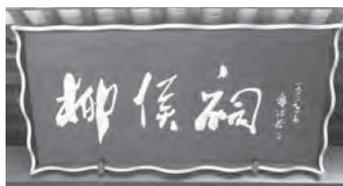
(広西壮族自治区柳州市)

文と写真

平井

徹

慶應義塾大学講師(中国文学)



◆DATA

人物: 柳宗元(773~819)。字は子厚。中唐期の詩人、散文家。『旧唐書』巻160に伝があり、著作は『柳河東州』にまとめられている。
墓所: 広西壮族自治区柳州市文惠路60号
アクセス: 東京から ▶ →3.5h 上海 ▶ →3h 柳州
あわせて行きたい: 柳子廟(湖南省永州市)、韓文公祠(広東省潮州市)

柳宗元(七七三―八一九)。字は子厚。祖籍は河東(現在の山西省永濟市)。中唐期を代表する詩人で、韓愈とともに散文の改革を目指した「古文復興運動」の提唱者としても名高い。

貞元九年(七九三)科挙に及第(同年の進士に劉禹錫がいた)、後に王叔文らが主導する「永貞の革新」グループに加わり、失敗に帰したことから、永州司馬に貶された。十年後、さらに南の柳州刺史に遷され、任地で病歿した。

柳侯祠一带は、柳州市街の繁華な一角に現存し、市民の憩いの場となっている。もとの名は「羅池廟」(敷地内に同名の池が現存する)といい、死の直後の長慶二年(八二二)

殿正面には、正装姿の柳宗元坐像が安置され、上の扁額には、「魂歸河東」(魂は河東に帰す)の四字が掲げられている(図1①)。建築物は近年の重建で、特筆すべきことはないが、祠内第一の文化財は、点在する六十余りの碑刻(石碑)で、特に「荔子碑」は一見の価値がある(図3)。

祠創建の翌年、柳宗元の友人でもあった韓愈は、廟の落成を聞いて、「柳州羅池廟碑」の一文を草した。二百年余り後、蘇軾がこれを字に書いた。柳宗元の事績に韓愈の文章、蘇軾の名筆ということで、後世「三絶碑」と称えられ、日本でも法帖が出版されており、書家にはすでにおなじみであろう。三者いずれも、「唐宋八大家」に数えられる文豪であることは周知のとおり。なお、「荔子碑」の名は、文章の後段の二字に由来し、碑の最も目立つ箇所に見えることからつけられたいささつがある。

祠の裏手、羅池のかたわらには、柳宗元の衣冠塚がひつ



(写真はすべて二〇〇九年撮影)

創建にかかる。柳宗元は刺史として善政を敷き(そのため、現代中国での評価も高い)、「柳柳州」と称された。僅か四年間の赴任に止まったが、現地の人々に慕われていたことがうかがえよう。

柳宗元の尊崇は、宋代にその度を加えた。哲宗の元祐七年(一〇九二)には、「羅池廟」に「靈文廟」の名が下賜され、徽宗の崇寧三年(一一〇四)には「文惠侯」、高宗の紹興二十八年(一一五八)には「文惠昭靈侯」と爵位が加えられる(ちなみに、祠の所在地は「文惠路」六十号)。

公園スペースから祠内に足を踏み入れると、人出もめつきり減り、あたりは静寂な雰囲気包まれる。メインの大きくそりとたたずむ。死の翌年にその柩は長安に還り、郊外の万年県(現在の陝西省臨潼県)棲鳳原の一族墓地に埋葬されたが、柳州の人々は、その柩を見送った地に衣冠塚を築いて記念にしたと伝えられる(図4)。文化大革命時に破壊され、一九七四年に修復された。「唐代柳宗元衣冠墓」八字は、祠正門の「柳侯祠」の扁額(地図上)ともども、現代中国の文学者郭沫若(一八九二―一九七八)の筆による。

柳州は南方中国の風情が横溢した地方都市である。人々の気質も穏やか、食べ物も美味で、長く滞在してみたい思いにかられる。明清期にかけて築かれた城壁と東門城楼も美しく、市内魚峰山から馬鞍山まで渡されたリフトに十分間ほど乗って、海拔二七〇メートルの馬鞍山山上まで至ると、Qを逆さにした形の柳江の流れと、その中に市街地が包まれているパノラマを一望できる。柳州で一番思い出深い一コマが、この絶景であった。

幸田国広 著

国語教育は文学をどう扱ってきたのか



四六判・並製・二七四ページ
定価 二四二〇円(税込)

評者 大井悟郎

今から半世紀以上も前「言語編」「文学編」に分かれた高校用国語教科書が存在したことを、ご存じだろうか。「言語編」には、「公式発表のしかた」「レポートと論文の書きかた」「討論と司会」「編集技術」といった項目が並ぶ。一方の「文学編」は、詩歌、小説、古典などで構成されている。おや、これは…。そう、今年の教科書採択で話題になった、「現代の国語」と「言語文化」の分け方にそっくりなのだ。本書は、日本の国語教育の歴史を、文学の扱いに主軸をおい

て丹念に振り返り、その位置づけを検証したものだ。戦後間もない頃から、国語教育界では、「言語の教育」と「文学の教育」の関係をめぐる論争が繰り返されてきた。「言語編」「文学編」の分冊教科書はその中で成立し、また、文学科を独立すべきだという議論が盛り上がった時期もあった。その経緯をたどることで、今回の高校国語の科目再編の背景も見えてくる。国語とは本来どういう科目なのか、文学をどう扱うべきか、熟考を促される好著である。

木村護郎クリストフ 著

異言語間コミュニケーションの方法



A5判・並製・二五八ページ
定価 二八六〇円(税込)

評者 小河内 光

海外に行くとき、日本で外国人と話さなければならぬとき、まっさきに「ああ、英語やらなきや」と思う人も多いだろう。本書を読むと、物の見え方が一八〇度変わるかもしれない。異なる言語を使う者同士がどうやって意思疎通を図るかは、人類が原初からかかえる普遍的課題である。本書は、そもそもそこにどういう選択肢があるのかを公平かつ網羅的にとりあげ、各方法の長所・短所を考察するという画期的な試みである。「相手の言語を学ぶ」「通訳

を使う」「共通語としての英語」は誰でも考えつくが、「それぞれが自分の言語を使う」「それぞれが相手の言語を使う」「言語を混ぜる」「 에스ペラント」等々、外国人と見たら英語!という短絡思考からは思いもつかない多様な世界があることがわかる。しかも、これらが机上の空論ではなく現実社会で行われていることを、後半で展開されるドイツ・ポーランド国境の調査報告の中で実証している。「スターウォーズ」の言語の分析など、コラムも楽しい。

尹盛熙 著

ことばの「省略」とは何か



A5判・並製・二三四ページ
定価 二七五〇円(税込)

評者 山本 敦

ことばを研究するとき、普通は音や文字としてそこに「存在する」ものが対象になる。しかしこの本はそこに「存在しない」ものに着目する。喋るとき、書くときに「何を省いているか」をひたすら分析し考察するのである。意表を突かれる。コミュニケーションにおいて、私たちは「多くのことを伝えたい」「一方で、短く伝えたい」とも思う。「電話した?」に対して「2回」と答える。言わなくてもわかることは、言わないで済ませるのが理にかなっているの

ある。本書は、会話例のほか、新聞の見出し、ドラマの翻訳字幕などを題材に、私たちの「省略戦略」がどういう仕組みで行われるのかを解明していく。白眉は日本語と韓国語の比較であろう。両言語は構造がほぼ同じなので、同じテキストの訳を対照させることで、「省略戦略」の違いが浮き彫りになる。それは、民族によって「言わなくてもいいこと」の捉え方が違うことを示唆するだろう。意外な切り口から人間社会の仕組みが覗け、想像力が刺激される。

北原保雄 編

大きな文字二色刷り 明鏡国語辞典 第三版



B5判・並製・函入・
一九二二ページ・二色刷り
定価 二六七〇円(税込)

評者 中楠 玲

昨年刊行された『明鏡国語辞典 第三版』に、待望の大型版が登場した。

判型はB5判。通常版の『明鏡』の二倍の大きさである。開いてみると、予想をはるかに超える見やすさに驚く。『明鏡』は第三版でレイアウトを一新し、ゴシック体や二色刷りを多用してとても読みやすくなったが、文字が大きくなることでそれがさらに活かしている。開きがいよいよいい。辞典はコピーを取る際に、ページの内側の部分がゆがんだり、影が入

って黒くなってしまったりすることがあるが、その心配もない。小さなことだが、これはありがたい。内容は、通常版と大型版で違いはないという。言葉の使い方の解説や、普段使いの言葉から改まった言葉を探せる「品格」欄、巻末の索引など、第三版の特色ももちろんそのままだ。教室では、グループ学習などでこの大型版が役立つだろう。コンパクトな通常版とともに、場面に応じてうまく使い分けながら、語彙学習にも活用したい。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

教育行政関係

- 中学校で新学習指導要領全面实施(4/1)
- ヤングケアラーの支援に向けたプロジェクトチーム報告(5/17)
- 文科省、令和4年度「大学入学選抜実施要項」発表(6/4)
- 「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」第一次報告(6/8)
- 大学入学共通テストでの記述式問題の導入、英語民間試験の活用を断念(7/30)
- 文科相、教員免許更新制の廃止方針を表明(8/23)
- 教科用図書検定調査審議会、「現代の国語」教科書での小説の扱いを今後「厳正審査」と見解(8/25)

ヤングケアラーの支援

「ヤングケアラー」とは、大人に代わって親やきょうだいの世話、家事、介護を行っている18歳未満の子をいう。家庭内のケアを担うことで、ケアラー本人のための時間が十分とれず、学業などに影響を及ぼすこともあるが、本人や家族にその認識がなく、また周りの人も気づきにくい。ヤングケアラーが年々増加傾向にあることから、厚労省・文科省が、ヤングケアラーの把握、適切な支援につなげるための方策についてのとりまとめを公表している。

国語関係・時事

- 本屋大賞発表。町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』(4/14)
- 芥川賞・直木賞発表。芥川賞は石沢麻依『貝に続く場所にて』、李琴峰『彼岸花が咲く島』、直木賞は佐藤究『テスカトリポカ』、澤田暉子『星落ちて、なお』(7/14)
- ユネスコ世界遺産に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」(自然遺産)、「北海道・北東北の縄文遺跡群」(文化遺産)の登録決定(7/26、27)
- 東京オリンピック開催(7/23～8/8)
- 東京パラリンピック開催(8/24～9/5)

デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議

6月8日、文科省の検討会議は、24年度から学習者用デジタル教科書を本格的に導入するための取り組みや留意点について、第一次報告を公表した。報告書では導入にあたって必要な実証研究、技術的課題の検討、他分野との連携などについて取り上げている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/mext_01453.html

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/157/toushin/mext_0006.html

大学入学共通テストでの記述式問題導入 英語民間試験の活用を断念

「大学入試のあり方に関する検討会議」は7月8日、大学入学共通テストでの記述式問題の導入、英語民間試験の活用について「実現は困難」とする提言を文科相に提出した。これらは第1回大学入学共通テスト実施直前に、実施を25年度以降に先送りとしていたもので、この提言によって正式に見送られることになった(7月30日)。

代わりに、大学の個別試験で記述式の充実を図ることが提言されている。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/toushin/mext_0086.html

大学入学選抜実施要項「発表

文科科学省は、6月4日、「令和4年度大学入学選抜実施要項」を公表した。それを受け、7月9日には、大学入試センター

が大学入学共通テストの「受験案内」及び「受験上の配慮案内」を公開した。

大学入学共通テストは、22年1月15日・16日を実施日とし、追・再試験を2週間後の1月29日・30日に設定している。

また要項では、個別学力検査でも各大学に追試験の設定あるいは別日程への振り替えを実施するように求めている。

大学入試センターの案内(https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouthou/r4.html)

「現代の国語」での小説の取り扱い

教科用図書検定調査審議会は、8月25日、新設教科「現代の国語」の教科書で小説を扱うことについて、今後は「学習指導要領の趣旨に照らし、より一層厳正な審査を行う」とする見解をまとめた。来年から使用される「現代の国語」教科書においては、ほとんどが文学作品を扱っていないが、一部で小説が掲載されたものがあり、「指導要領の趣旨に合わない」との声が上がっていた。学習指導要領「現代の国語」では、「論理的な文章及び実用的な文章」を取り扱うこととしている。

研究会だより

全国大学国語教育学会第141回世田谷大会

日時 2021年10月16日(土)・17日(日)

場所 オンライン

問い合わせ <https://sites.google.com/view/2021setagaya>

日本近代文学会 2021年度秋季大会

日時 2021年10月23日(土)・24日(日)

場所 未定(オンラインの可能性あり)

問い合わせ <http://anjis.jp>

日本語学会 2021年度秋季大会

日時 2021年10月30日(土)・31日(日)

場所 オンライン

問い合わせ <https://www.jling.gr.jp/takai/2021/>

全国高等学校国語教育連合会

第54回研究大会群馬大会

日時 2021年11月18日(木)

場所 オンライン

問い合わせ <http://www.kokugo.gr.jp/>

日本漢字学会 第4回研究大会

日時 2021年12月4日(土)・5日(日)

場所 立命館大学大槻いばらきキャンパス(オンラインもしくは併用の可能性あり)

問い合わせ <https://jscc.org/>

来年度から新学習指導要領に則った新しい教科書が使われ始めます。先生方からお話を伺うと、やはり「今までと変わる」ことに不安を感じている先生が多数いらっしゃいました。変わることに対して、誰もが不安を感じると思います。私自身、昨年に転職し、「今までと変わる」仕事に対して、不安を感じ、頭を悩ませながら取り組んでおります。しかしながら、「今までと変わる」ことは「新しいことへの挑戦」でもあります。私は学生時代にラグビーをしていましたが、「挑戦する者」にしかチャンスは訪れないということを学びました。厳しい世の中でも「挑戦する」気持ち忘れずに日々精進して参りたいと思います。

大阪支店 鈴木貴裕



先日とあるデンマーク人に出会いました。彼女は現地の学校でpedagogue、ペダゴグとして働いていたそうです。ペダゴグの役割は、学生同士のコミュニケーションを支え、一人一人の個性の育成をサポートすること。授業中は生徒をじっくり観察しながら、それぞれに合った勉強方法を提案し、相談事に応じます。学生たちはペダゴグの支援の下、自分で考え、行動し、発言することを学びます。他者と議論し、答えを模索する対話型、問題解決型学習を通して、思考力や社会性、人間性を身に付けるのです。新学習指導要領のテーマ「主体的・対話的な学び」を実現するためには？ 対話の重要性を改めて考え直すご縁に恵まれました。

東京支店 安井三綺



「準備」。よく使う日常語ですが、締め切り直前にならないと重い腰が上がりません。私には、どこか縁遠くも感じられる言葉です。先日社内でフロアの引越しがあったのですが、ギリギリまで段ボールに触れる気も起きず、引越し前日に慌てて荷造りを開始するという体たらくでした。▼さて本号では、いよいよ来年四月から始まる新学習指導要領の実施を前に、いまでできる国語の「準備」について特集しました。四年前、指導要領公示の直後で大わらわの国語部署に配属されたあの頃から、ようやくここまで来たなと実感しています。資質・能力の育成、評価の方法、ICT……新課程での国語について、具体的なイメージが膨らむ内容を盛り込んだつもりですので、来春からの授業計画を練る際の一助にしたいだければ幸いです。▼膨大な「準備」を経て実現した「TOKEYO 2020」が閉幕し、少し寂しい気もする今日この頃。コロナ禍も早く閉幕を迎え、人々が当たり前の日常を取り戻せる日が来ればと願っております。(輔)

詩の作品、大募集!

詩人の和合亮一先生による連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介いたします。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント!

「大修館書店『国語教室』係」まで、奮ってご応募ください。

国語教室 第116号
2021年10月15日発行

編集室 国語教室 編集室
発行人 鈴木 一 行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社 大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>